

大山隠岐国立公園

ステップアッププログラム 2030

素案（改定のポイント）

【議論のポイント（例）】

- 施設整備・景観改善等を含む受け入れ環境の向上、地域における連携体制の構築、国内外へのプロモーション、コンテンツ造成の継続・強化
- 個々の地域の魅力向上にとどまらず、公園外を含めて地域を周遊して満足度の高い体験が得られ、滞在時間・消費額を増加させるための施策について、協議会の取組として注力（ガイド育成等）
- 大山蒜山地域における先端モデル事業の取組と連動させ、周囲への波及効果を生み出す取組
- 利用の促進だけでなく、自然環境の保全・再生とリンクさせた取組への注力
- ジオパークや日本遺産などの自然・文化を活用した取組との連携強化
- 関係省庁の支援事業を含め、活用しうるツールに関する情報を適時共有するネットワーク化
- 民間事業者の積極的な参画を促す工夫

目次（変更案）

はじめに

SUP2030 策定の目的と位置づけ

※何を目的とする計画・協議会なのかを改めて整理し明記する。

1 現状分析

1. 1 大山隠岐国立公園の概要

1. 2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者

(1) 全体の利用者数とアクセスの概況

(2) 日本人利用者の概況

(3) 外国人利用者の概況

1. 3 ステップアッププログラム ~~2025~~2030 の達成状況及び本プログラムへの継続性

~~1. 4~~ 新型コロナウイルス感染症による影響

※大きな影響の収束を踏まえて削除

2 目標

2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ）

2. 2 ターゲットとする利用者層

2. 3 目標

2. 4 取組の方針

2. 5 指標

3 優先的な取組

3. 1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組

(1) 国立公園全域における優先的な取組

(2) 島根県内の4地域における優先的な取組

3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組

(1) 大山蒜山三徳山地域の概要

(2) 重点地区及び優先的な取組

(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

3. 3 隠岐地域で実施する取組

(1) 隠岐地域の概要

(2) 重点地区及び優先的な取組

(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

3. 4 島根半島東部地域で実施する取組

(1) 島根半島東部地域の概要

(2) 重点地区及び優先的な取組

(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

3. 5 島根半島西部地域で実施する取組

(1) 島根半島西部地域の概要

(2) 重点地区及び優先的な取組

(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

3. 6 三瓶山地域で実施する取組

(1) 三瓶山地域の概要

(2) 重点地区及び優先的な取組

(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

4 進捗評価及びプログラムの改訂

4.1 各協議会の体制と役割

※取組の共有だけでなく、実施主体としての協議会の役割を記載

4.2 進捗評価

4.3 プログラムの改訂

別紙1-実施・検討する取組の一覧

※別途、年次計画として実施・検討する取組の整理及びフォローアップを行う

別紙1 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱

別紙2 大山隠岐国立公園の関係市町村一覧

別紙3 大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに参画・賛同する機関・団体の一覧

※民間の機関・団体等の関わりについて、効果的な参画のありかたを整理

はじめに

2016年（平成28年）3月、政府は、成長戦略と地方創生の柱として、観光を我が国の基幹産業へと成長させるべく、「明日の日本を支える観光ビジョン」を取りまとめた。環境省では、同ビジョンに基づき、日本の国立公園を世界水準の旅行の目的地とし、ブランド化を図る「国立公園満喫プロジェクト」を2016年度（平成28年度）から推進している。

大山隠岐国立公園は、他の7国立公園とともに、同プロジェクトの取組を先行的、集中的に実施する国立公園として選定され、これを受けて同年9月に、関係行政機関や地域関係者で構成される「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会」が設立された。地域協議会では、同年12月に、~~本プログラムの前身となる~~「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2020」を、~~2016年度（平成28年度）から2020年度（令和2年度）まで、また2021年2月には「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025」を2021年度から2025年度までのそれぞれ5年間を計画期間とし、具体的な取組方針を掲げるロードマップとして作成した。~~この間、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、取組が中断されるなどの影響があったが、今日に至るまで国立公園における魅力的な体験の提供と、保護と利用の好循環の実現に向けた取組が各地において着実に進められてきている。

本プログラムは、これまでの10年間の取組を礎に、「明日の日本を支える観光ビジョン」で掲げられた2030年までの政府全体の目標や、全国の国立公園における満喫プロジェクトの取組方針を踏まえ、大山隠岐国立公園がさらに魅力的に発展していくための2030年度までの5年間の取組の指針であり、具体的な行動計画である。

~~以降、同プログラムに基づき、多様な主体により、200を超える実に多角的な取組が行われてきた。結果、大山隠岐国立公園を軸とした観光地域づくりが進められ、またターゲットとしていた訪日外国人旅行者も着実に増加しつつあったが、目標としていた程度よりも緩やかな増加に留まっていることや、これまでの成果や課題を踏まえて取組を発展的に持続させる必要があったことから、2020年（令和2年）2月の地域協議会において、2021年度（令和3年度）以降も大山隠岐国立公園満喫プロジェクトを継続することが合意された。~~

~~その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、観光分野は未曾有の影響を被ることになった。~~

~~本プログラムは、こうした時勢の中、2020年度（令和2年度）に地域協議会及びその下位機関である地域部会での複数回の協議を経て作成されたものである。引き続き大山隠岐国立公園独自の魅力を高めるとともに、前身のプログラムとは異なり訪日外国人旅行者だけではなく国内旅行者もターゲットに定めた上で、国内外からの利用者を回復させることを目指している。本プログラムは、こうした目標の達成に向けて大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに携わる全ての人にとっての、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）までの5年間の取組の指針であり、かつ、具体的な行動計画である。~~

2021年（令和3年）2月策定

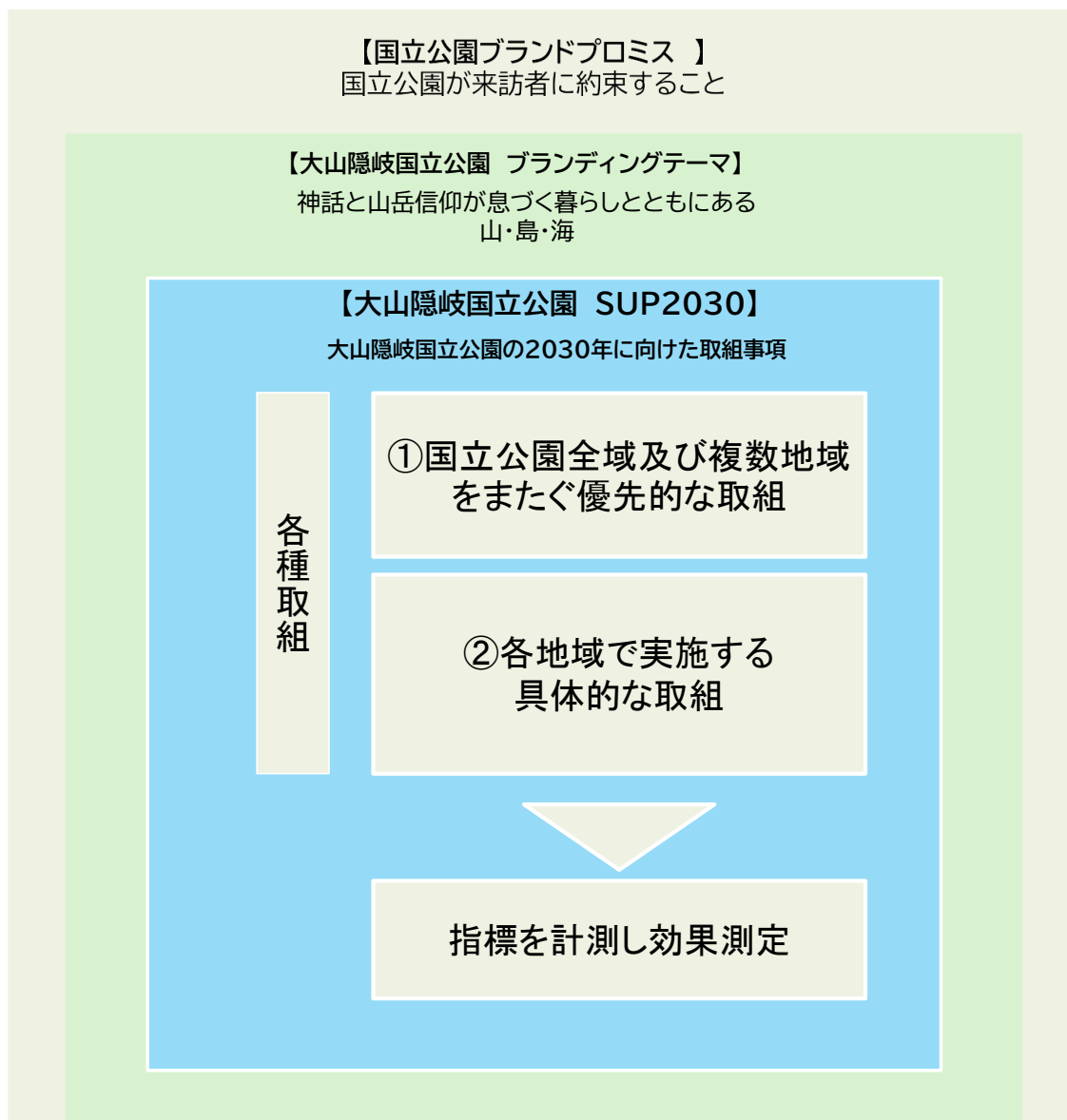
大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会

SUP2030 策定の目的と位置づけ

大山隠岐国立公園ステップアッププログラム（以下、「SUP」）は、国立公園の「ブランドプロミス」及び大山隠岐国立公園の「ブランディング・テーマ」を具体化し、ひいては「明日の日本を支える観光ビジョン」や「観光立国推進基本計画」で掲げられた目標の達成に貢献するためのロードマップである。多様な自然風景と生活、文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる日本の国立公園の一つとして、また、大山隠岐国立公園ならではの特長を活かして、国内外からの利用者に魅力的な滞在体験を提供すると同時に、保護と利用の好循環の実現により地域の持続可能性を高めることを目的としている。

大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会は、大山隠岐国立公園をさらに魅力的にしていくための取組を多様な主体による協働で実施していくためのプラットフォームである。協議会は、情報共有やネットワーキングの場としてだけでなく、SUP に基づく取組を実施する協創の場としての役割を持つ。

【SUP2030 の位置づけ】（理解の助けとなる図を挿入）



参考：国立公園のブランドプロミスとは？

国立公園ブランドプロミスは、国立公園の管理運営に関わる関係者が共通の理解を持つための「全ての国立公園の共通の管理運営指針」に位置付けられています。これは国立公園が来訪者や地域に対して約束する事柄であり、「その自然には物語がある」というブランドメッセージに基づき、多様な自然風景と生活、文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができることを提供価値としています。具体的な内容としては、自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生することに加え、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みをつくり、脱炭素化や地産地消への取り組みを通じて持続可能な地域づくりに貢献することを目指しています。また、物語（ストーリー）に沿った魅力的な自然体験コンテンツや体験コースを創出し、温泉街などの利用拠点の魅力向上や施設の整備・管理を進めるとともに、統一されたメッセージやデザインを活用して国立公園に関する情報を広く発信し、理解拡大に努めることが定義されています。これらの活動は、環境省と地域の多様な主体が一体となって推進されます。



国立公園のブランドプロミスとブランディング活動の関係

ブランドメッセージ

その自然には、物語がある。

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

ブランドプロミス (国立公園が来訪者・地域に約束すること)

- | | | | |
|---------------------|------------|--------------------------|-----------------------|
| 1 感動を与える
美しい自然風景 | 2 サステナビリティ | 3 自然と人々の物語を
知るアクティビティ | 4 感動体験を支える
施設とサービス |
|---------------------|------------|--------------------------|-----------------------|

ブランディング活動 (ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省が地域・関係者と一緒に取り組むこと)

- ① 自然・生活・文化・歴史を把握し、物語（ストーリー）を明らかにし、保護と利用の方針を定め、行動計画を作成します。
- ② 地域のコーディネーターとして、地域の多様な主体と一体となって公園管理や魅力の発信に取り組めます。

③ 自然の風景や野生生物、生態系を保護・再生します。

④ 利用者負担による保護管理へ還元する仕組みづくりや、利用のルール、限定体験の提供などに取り組めます。

⑤ 脱炭素化や地産地消などに取り組み、持続可能な地域づくりに貢献します。

⑥ 物語(ストーリー)に沿った魅力的な自然体験コンテンツと体験コースをつくります。

⑦ 集団施設地区・温泉街等の利用拠点の魅力向上を図ります。

⑧ 魅力的な利用施設の整備・管理を進めます。

⑨ 統一したメッセージ、デザインを活用し、国立公園に関する情報を広く発信し、認知拡大に努めます

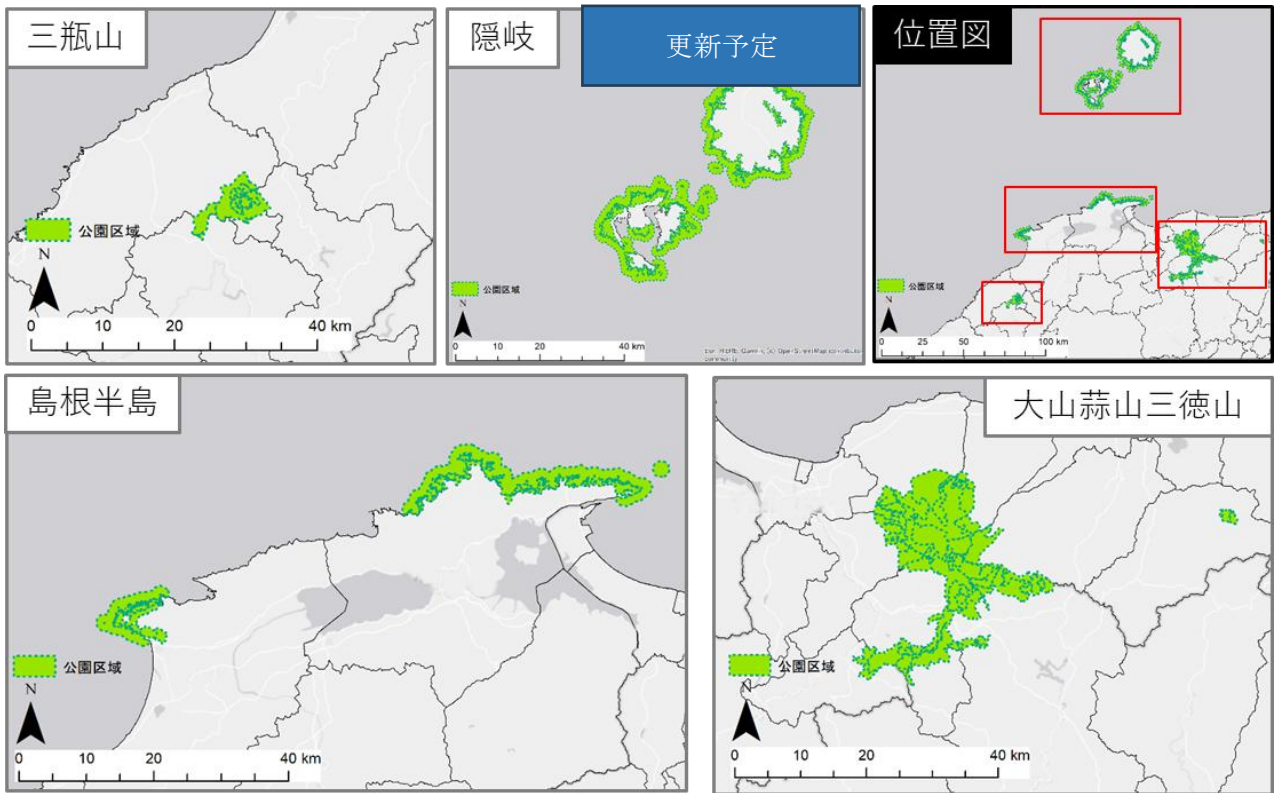
4

出典：国立公園のブランドプロミス参照（環境省）

1 現状分析

1. 1 大山隠岐国立公園の概要

大山隠岐国立公園は、鳥取県、島根県及び岡山県の三県にまたがり、面積は陸域と海域を合わせて69,411haに及ぶ。1936年（昭和11年）に大山地域が大山国立公園として指定され、1963年（昭和38年）に隠岐諸島、島根半島、三瓶山、蒜山地域が編入され、同時に大山隠岐国立公園へと名称が変更された。その後、2002年（平成14年）に毛無山一帯が、2014年（平成26年）に三徳山一帯が編入されている。



生物多様性センター「国立公園区域等」をもとに作成

図 1 大山隠岐国立公園の位置図

中国地方の最高峰である大山のほか、蒜山、船上山、毛無山、三瓶山等の山地部は、火山地形、森林、草原等で構成され、それぞれの環境に適応した多様な動植物が見られる。なかでも大山は歴史上最古の神山として知られ、三徳山は山岳修行の聖地と言われている。

隠岐諸島や島根半島地域の海岸・島嶼部では、火山活動や地殻変動等の多様な要因により形成された、世界的に貴重な海岸景観が広がっている。これら隠岐諸島と島根半島地域は、それぞれ「ユネスコ世界ジオパーク」「日本ジオパーク」に認定されており、大自然と人の営みが共生する稀有な地域である。また、国立公園内には日本遺産に認定されたストーリーが複数あり、こういった取組との連携も重要となっている。

公園計画の観点では、2023（令和5）年の第3次点検を経て、深い森林と信仰が一体となった「壇鏡の滝」の区域編入や、赤壁、津戸・小津久等の利用拠点における計画拡充が行われるなど、国立公園としての魅力の向上と保護体制の強化が図られている。

~~隠岐諸島や島根半島地域の海岸・島嶼部では、火山活動・地殻変動・気候変動・沖積作用・浸食作用等の要因の組合せにより形成された多彩な海岸景観が見られる。とりわけ隠岐諸島は、その地質学的な成り立ちや、独自の生態系、受け継がれてきた人の営みが評価され、ユネスコ世界ジオパークに認定されている。また、島根半島地域は、日本ジオパーク「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」として認定されている。島根半島地域には、出雲大社をはじめとする神話にまつわる名所旧跡が点在し、古くから伝わる神事が数多く執り行われている。~~

大山隠岐国立公園は、このように、自然と文化が融合した多彩な景観を楽しめる点が特徴となっている。これを反映して、登山、ハイキング、スキー、遊覧船からの海岸景観の鑑賞、海水浴、シーカヤック、ダイビング、キャンプ、サイクリング等の山や海での四季折々のアクティビティとともに、寺社参詣や神楽の鑑賞等の文化・歴史に触れる体験とを組み合わせた多様な利用がなされている。

また、これらの取り組みを継続的に実施するためにはその舞台となる自然環境を保全することが欠かせないことから、登山道整備や山焼きなどの保全活動を、アクティビティとして提供する取組みが始められている。



スキー



カヤック



登山



ダイビング



サイクリング



キャンプ

図 2 大山隠岐国立公園内で行われるアクティビティの例

✓ コラム 国立公園の指定と保護管理

国立公園は、日本を代表する傑出した自然の風景地として、自然公園法に基づいて指定される。2021年（令和3年）2月現在、全国で34の国立公園が指定されている。

各国立公園は、自然環境や利用状況を考慮して、特別保護地区、第1種～第3種特別地域、海域公園地区、普通地域の6つに分けられており、各区分に応じた規制が敷かれている。特別保護地区では原生状態を保持するため行為を厳しく制限しており、他方で普通地域は規模の大きい自然改変を規制する緩衝地帯となっている。第1種～第3種特別地域はこれらの中間的な位置づけになる。国立公園の海域は大半が普通地域であるが、一部、動植物の捕獲等を規制する海域公園地区が指定されている。

大山隠岐国立公園では、陸域 35,097 ha 中、6.2%が特別保護地区、81.4%が第1種～第3種特別地域、12.4%が普通地域に指定されており、海域 33,977.6 ha 中、0.2%が海域公園地区、99.8%が普通地域に指定されている。これらの区分けは大山隠岐国立公園の公園計画書において定められており、定期的に見直しが行われている。

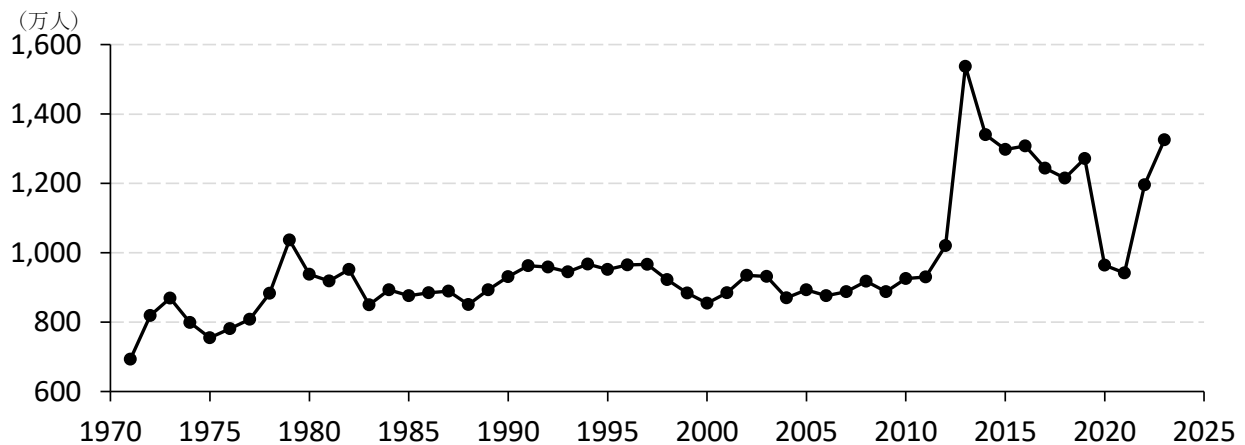
さらに、大山蒜山三徳山地域、隠岐地域、島根半島地域及び三瓶山地域のそれぞれについて、地域の実情に即したきめ細かな管理の指針として管理計画が策定されている。

1. 2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者

(1) 全体の利用者数とアクセスの概況

1) 大山隠岐国立公園の利用者数の推移

大山隠岐国立公園の年間利用者数は、長年 800 万～900 万人台で安定して推移してきたが、2013 (平成 25) 年の過去最高値 (1,537 万人) を転換点として、利用者数が増加した。近年は、コロナ禍による一時的な減少を経て 2023 (令和 5) 年には 1,326 万人まで回復しており、コロナ禍前の水準にまで回復している。



※ 環境省 自然公園等利用者数調 (2023 年) をもとに作成

図 3 大山隠岐国立公園の年間利用者数の推移 (1971 - 2023 年)

以下、利用者関係の現況については、資料 2-(2)「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025 に基づく取組の進捗評価」及び資料 3-(1)-2「目標・指標設定に関わる国内外の旅行動向」の内容を反映し、更新する。

2) 国内からのアクセス

空路では、大山隠岐国立公園内の複数の地域へのアクセスが良いのは米子空港と出雲空港である。両空港とも羽田空港から定期便が 1 日往復 5 本程度就航している。出雲空港では大阪や名古屋、静岡、仙台、福岡を結ぶ定期便も就航している。このほか、隠岐空港、鳥取空港及び岡山空港も利用される。

陸路では、JR の山陰本線や伯備線等を経由する特別急行列車や各路線の普通列車、私鉄の一畑電車が利用される。また、米子駅、松江駅、出雲市駅等を発着する高速バス網も発達している。乗用車等による主要なアクセス路線としては山陰自動車道 (E9)、米子自動車道 (E73)、松江自動車道 (E54) 等の高速道路が挙げられる。

海路では、本土の境港及び七類港と隠岐 4 島を結ぶ定期船 (高速船及びフェリー) と、隠岐の島前地域の 3 島間を結ぶ内航船が就航している。

3) 海外からのアクセス

空路では、羽田空港等で国際線から国内線に乗り継がれるか、香港及び上海から米子空港への定期便が利用される。香港・米子便は2017年（平成29年）12月以降週3便、上海・米子便は2020年1月の就航以来週2便が運行されていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、両便とも2020年（令和2年）2月から運休している。また、出雲空港では国際チャーター便誘致の取組が進められており、これまでに台湾やソウル等との間での運行実績がある。

海路では、年間を通して海外からのクルーズ船が境港に寄港する。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2020年（令和2年）1月以降、クルーズ船は境港に寄港していない。

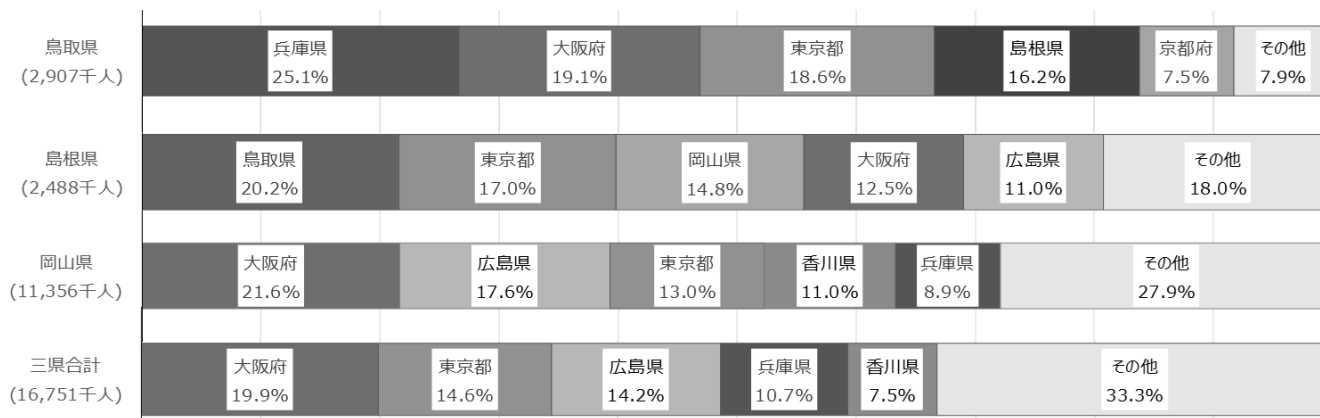
このほか、首都圏や関西圏等、他の地域を拠点に日本に中長期滞在し、その一部の期間を過ごすため、2）に記載の手段で大山隠岐国立公園を訪問する海外からの旅行者が相当数いると考えられる。

なお、日韓関係の影響を受けて、週6便運行されていた米子・仁川（ソウル）空港間の定期便は2019年10月から運行を休止しており、境港・東海（韓国）・ウラジオストク（ロシア）を結ぶ定期船は2019年11月から運行を停止した後、廃止に至っている。

（2）日本人利用者の概況

1）3県への旅行者の来訪の概況

2018年度（平成30年度）に、自家用車以外での交通手段（鉄道、定期航空、乗合・貸切バス等）によって、県外から鳥取県、島根県、岡山県を訪れた旅行者の出発地となった都道府県の構成は下図のとおりである。3県とも、近畿地方及び中国地方からの旅行者の合計が半数近く又は過半数に上るとともに、東京都からの来訪が1～2割を占めている。

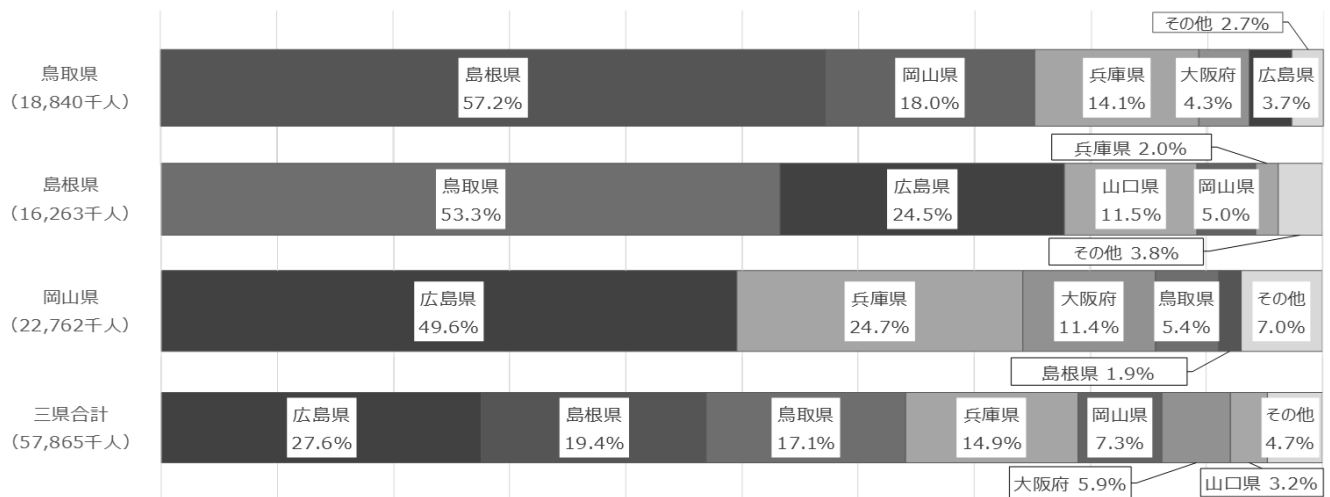


※ 国土交通省 旅客地域流動調査（2018年度）をもとに作成。

県外から到着する鉄道（定期利用を除く）、乗合・貸切バス等の営業車両、定期航空等のデータを利用。

図 4 鳥取県、島根県、岡山県に到着した旅行者数と出発地の構成（2018年度）

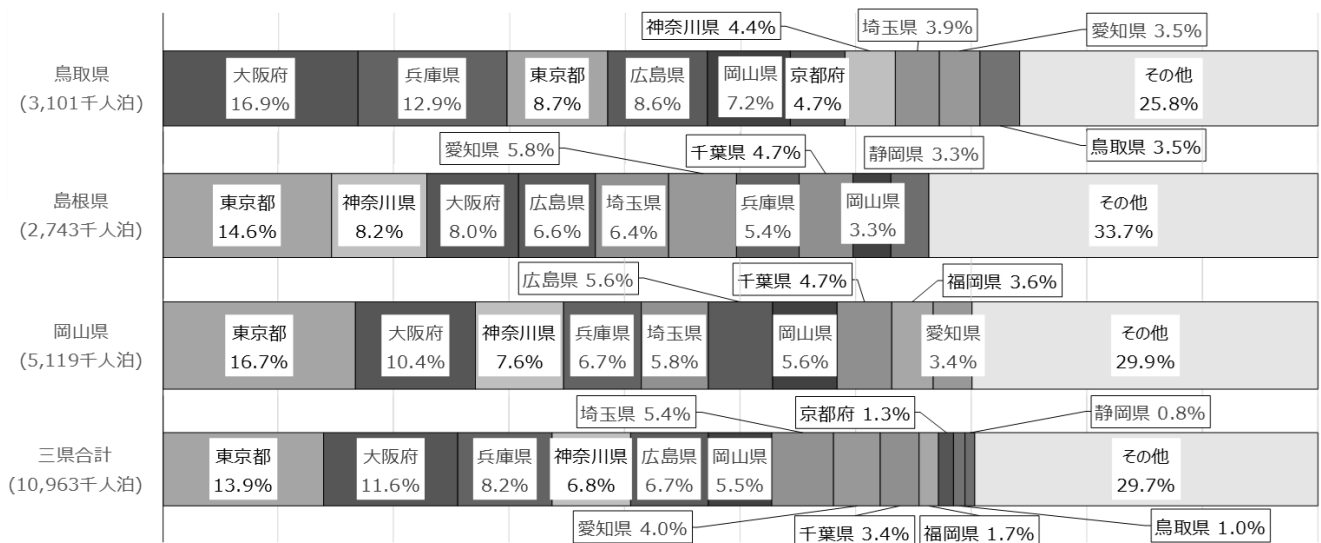
一方で、第6回（2015年度）全国幹線旅客純流動調査（国土交通省）のデータを用いて、県外から鳥取県、島根県、岡山県を訪れた旅行者の使用した交通手段別の割合を算出したところ、自家用車やタクシーの割合が約8割に上り、鉄道、航空、幹線バスがこれに続く結果となった。自家用車やタクシーによる場合の、県外から3県それぞれへの旅行者の出発地となった都道府県の構成は図3のとおりで、隣県からの来訪の比率が高くなっている。



※ 国土交通省 第6回全国幹線旅客純流動調査をもとに作成（都道府県間流動表・居住地から旅行先・年間・代表交通機関：乗用車等）

図 5 鳥取県、島根県、岡山県に乗用車等で到着した旅行者数と出発地の構成（2018年度）

また、2018年に、鳥取県、島根県、岡山県に宿泊した日本人の延べ宿泊者数と、宿泊者の居住する都道府県の構成は下図のとおりで、宿泊旅行の主要なマーケットは首都圏、近畿地方、そして中国地方であることが示唆される。



※ 観光予測プラットフォーム推進協議会 観光予測プラットフォーム（2018年）をもとに作成。

RESASより3県分データを出力し、各県に到着した旅客の出発地 上位10都道府県まで表示

図 6 鳥取県、島根県、岡山県の日本人延べ宿泊者数と居住都道府県（2018年度）

2) 大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

満喫プロジェクトを推進する先行8公園の訪問者を対象として、2019年度中に実施されたアンケート調査の結果（日本人回答数216票）から、大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している8公園の平均値も一つの目安に過ぎないことに留意する必要がある。

大山隠岐国立公園を訪問した日本人の平均宿泊数は、公園内では0.7泊/人、公園周辺地域を含めると1.6泊/人と、8公園の平均値（それぞれ1.1泊/人、1.9泊/人）と比較していずれも短い傾向がみ

られた。一人あたりの消費総額は 32,392 円となり、8 公園の平均値よりも約 4,500 円高く、個別の費目においては交通費が平均値よりも高い一方で、自然体験・アクティビティ費は平均値の半分以下の 711 円/人となった。訪問回数が 2 回目以上であるリピーターの割合は 46.4%となり、8 公園の平均値を 11 ポイント下回った。

満足度については、7 段階評価（最大 7 点～最低 1 点）で、大山隠岐国立公園での滞在全体に対する総合評価は 5.61 となり、肯定的な評価ではあったものの、8 公園の平均値 (5.91) よりもやや下回った。項目別の満足度も全体的に平均値を下回る結果となり、特に、宿泊施設、移動・交通、案内板・標識、遊歩道・展望台の 4 項目に対する評価が低かった。一方で、現地ツアー・プログラム、ビジターセンター等での情報提供の 2 項目については平均値を上回った。

宿泊数や自然体験・アクティビティ費の支出が比較的少ない傾向が見られることから、体験ツアー等を活用して滞在型観光を楽しむ利用者は、未だ少数派であることが想定される。他方で、満足度評価では、現地ツアー・プログラムの項目で比較的高い評価を得ていることから、質の高い体験ツアー等の提供を更に進めることで、大山隠岐国立公園における滞在全体の満足度向上や、滞在日数の延伸等につながることを期待される。あわせて、交通費の支出が大きい一方で、移動・交通に関する満足度が低い傾向を踏まえ、広域に分布する大山隠岐国立公園内の移動にあたって生じる金銭的負担や心理的ストレスを軽減できる二次交通の整備・拡充や、さらに踏み込んで移動そのものが何らかの体験価値を生み出すような取組が求められる。

（３）外国人利用者の概況

1) 大山隠岐国立公園の訪日外国人利用者数の推移

大山隠岐国立公園では、複数手法を用いて、2015 年から 2020 年分まで訪日外国人利用者数の推計を行っている。一つは全国の 34 国立公園について推計している環境省「国立公園別訪日外国人利用者数推計値」であり、下表において手法 1 としている。ただし、この手法については、山陰地方の空港が調査対象となっておらずサンプル数が少ないことから、大山隠岐国立公園については実際の利用実態をあまり反映していないと考えられる。このため、手法 2 及び 3 として、観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに算出した大山隠岐国立公園の区域が含まれる 18 市町村（別紙 3 参照）や宿泊拠点となるその他の山陰及び山陽地方の市町村における外国人宿泊者数推計値や、境港へのクルーズ船寄港者数等を用いた推計を行っている。

手法間で数値や増減傾向等の違いがあるものの、2019 年の外国人利用者数は手法 1 で 2015 年比 2 倍、手法 2 で 1.5 倍、手法 3 で 1.6 倍に増加している。特に、より実態を反映していると考えられる手法 2 及び 3 の結果からは、堅調な増加傾向が示されている。ただし、2020 年については、新型コロナウイルス感染症の影響によって外国人利用者数は激減した。

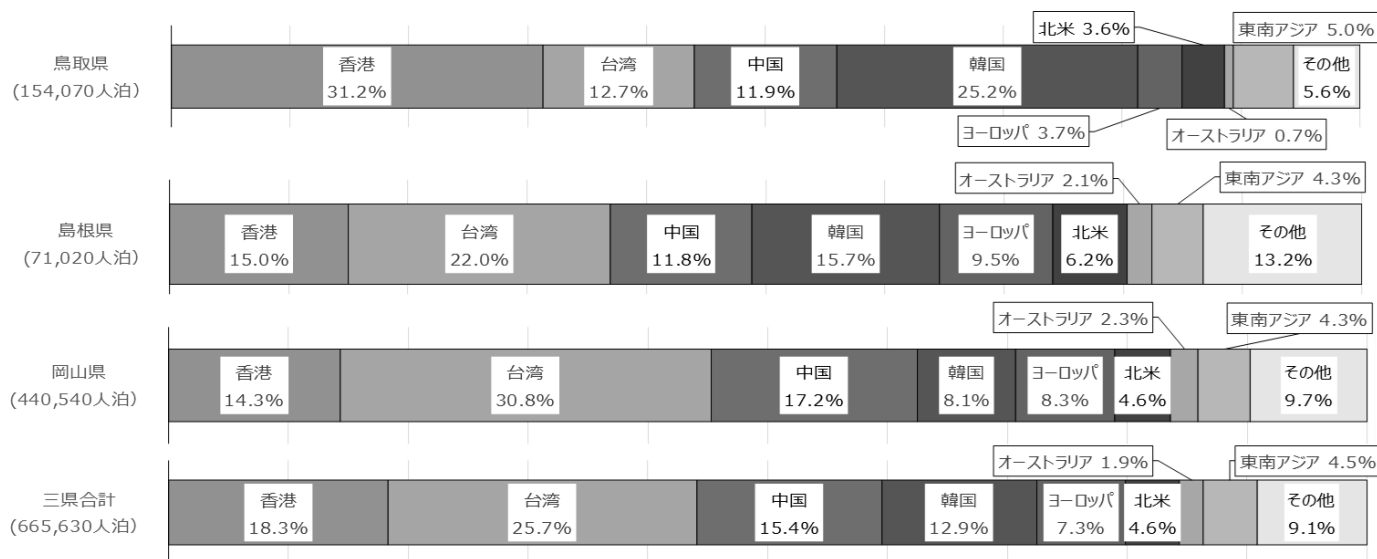
表 1 大山隠岐国立公園の訪日外国人利用者数の推移（単位：人）

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
手法 1：「国立公園別訪日外国人利用者数推計値」（実利用者数）	5,954	13,904	10,951	4,706 ^{*1}	11,870	-
手法 2：公園区域が含まれる市町村及び近接する 9 市町村 ^{*2} の宿泊者数推計値、クルーズ船寄港者数 ^{*3} を用いた推計値	106,543	104,923	126,305	147,344	158,928	19,079
手法 3：公園区域内での宿泊者数推計値、山陰・山陽地方の 23 市町村 ^{*4} で公園区域外での宿泊者数推計値に公園訪問比率 ^{*5} を乗じた値、クルーズ船寄港者数 ^{*3} を用いた推計値	155,301	188,568	230,289	286,402	255,189	45,098

- ※1 サンプル数が少なく信頼性が低いため、参考値とされている。
- ※2 米子市、境港市、南部町、日南町、北栄町、湯梨浜町、安来市、雲南市、奥出雲町。
- ※3 境港へのクルーズ船寄港者のうち大山隠岐国立公園への日帰り利用者数を用いている。
- ※4 大山隠岐国立公園の区域が含まれる 18 市町村と、米子市、鳥取市、岡山市、倉敷市、広島市。
- ※5 2017 年度（H29 年度）に米子市、松江市、出雲市等の山陰地域主要都市の外国人宿泊者（422 名）にアンケート調査を行い、大山隠岐国立公園への訪問率を算出したもの。公園区域外の山陰地域で 77.5%、山陽地域で 17.4%。

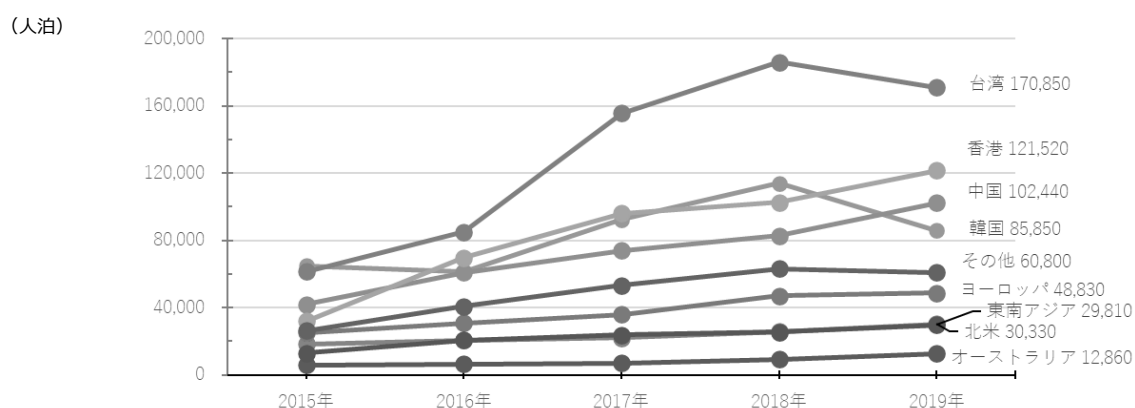
2) 3 県への旅行者の来訪の概況

2019 年（令和元年）の鳥取県、島根県、岡山県における外国人延べ宿泊者数推計値と、国・地域別の構成は図 7 のとおりである。香港、台湾、中国及び韓国からの旅行者で 6 割から 8 割を占め、次いで欧米豪（北米、ヨーロッパ、オセアニア）が合わせて 1～2 割、東南アジアが 5%前後となっている。また、2015 年（平成 27 年）から 2019 年（令和元年）までの推移では、特に香港（3.8 倍）及び台湾（2.8 倍）からの旅行者数が顕著に伸びている。



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査（平成 31 年 1 月 - 令和元年 12 月）確定値をもとに作成

図 7 鳥取県、島根県、岡山県の外国人宿泊者数推計値と国・地域別構成比（2019 年）



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査 各年確定値の参考第 1 表をもとに作成。

図 8 鳥取県、島根県、岡山県の外国人宿泊者数推計値の推移（2015 - 2019 年）

3) 大山隠岐国立公園での滞在の概況、満足度

日本人利用者の概況と同様に、満喫プロジェクトを推進する先行8公園の訪問者を対象として、2019年度中に実施されたアンケート調査の結果のうち、外国人による回答（106票）に基づき、大山隠岐国立公園における利用・滞在の状況を概観する。なお、公園間で調査地点の設定や回答数に差異があることから、各公園の結果を同列に比較することはできず、以下で示している8公園の平均値も一つの目安に過ぎないことに留意する必要がある。

大山隠岐国立公園を訪問した外国人の平均宿泊数は、公園内では0.8泊/人、公園周辺地域を含めると3.3泊/人と、8公園の平均値（それぞれ1.4泊/人、3.4泊/人）と比較していずれも短い傾向がみられた。一人あたりの消費総額は85,957円となり、8公園の平均値と比較して約21,000円高く、個別の費目においては宿泊費、飲食費、交通費、買物費が平均値よりも高い一方で、自然体験・アクティビティ費は1,353円で平均値を約1,000円下回った。訪問回数が2回目以上であるリピーターの割合は7.4%と、8公園の平均値を約6ポイント下回った。

満足度については、7段階評価（最大7点～最低1点）で、大山隠岐国立公園での滞在全体に対する総合評価は5.87となり、肯定的な評価ではあったものの、8公園の平均値（6.22）を下回った。項目別の満足度は全体的に平均値よりも低く、特に宿泊施設、移動・交通、お土産、現地ツアー・プログラム、外国語表記、外国語対応の6項目に対する評価が低く、自由記載でも交通手段・案内の不足についての意見が多かった。一方で、自然景観については、比較的高い評価となった。

消費額が大きかったにもかかわらず宿泊施設や移動・交通、お土産に対する満足度や、外国語表記・対応に対する満足度が低かったこと、他方で、自然景観に対する満足度が比較的高かったことから、引き続き多角的に受入環境整備を進めることで、自然景観が資源としてより活かされ、滞在全体としての満足度やリピーター率の向上につながるものと思われる。また、宿泊数の違いを考慮しても、日本人利用者と比べて、外国人利用者は宿泊費、飲食費、買物費の支出が顕著に大きいことから、高質な滞在環境や体験を希求し、かつ、そうした価値に対して相応の支出を行う傾向があると考えられるため、受入環境整備を進めるにあたっては、この点を考慮すべきである。さらに、日本人利用者と同様に自然体験・アクティビティ費の支出が少なかったことに加えて、現地ツアー・プログラムへの満足度が低かったことから、外国人向けの体験ツアー等の提供の充実と磨き上げを並行して進めることが求められる。

1. 3 ステップアッププログラム 2020 の達成状況及び本プログラムへの継続性

(1) ステップアッププログラム 2020 の概要

本プログラムの前身となる「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020」（以下、「ステップアッププログラム 2020」という。）は、2016 年度（平成 28 年度）から 2020 年度（令和 2 年度）までの 5 年間に計画期間とし、「大山隠岐国立公園における 2020 年（令和 2 年）の訪日外国人利用者数を 2015 年（平成 27 年）の 2.5 倍にする」ことを全体の目標として掲げていた。2016 年（平成 28 年）12 月に策定され、以降約 1 年毎に取組の実施状況を踏まえた改訂が行われ、最終改訂は 2020 年（令和 2 年）2 月に行われている。最終改訂時点で、国立公園全域及び各地域における個別の取組目標を計 272 項目（検討 49 項目、実施 223 項目）掲げていた。全体の目標については大山隠岐国立公園における訪日外国人利用者数や、外国人対応ツアー・プログラム数、外国人利用者満足度を指標として評価を行うとともに、個別の取組目標については実施状況や課題等を整理することで、ステップアッププログラム 2020 の達成状況を測ることとしていた。

(2) ステップアッププログラム 2020 の達成状況及び本プログラムへの継続性

全体の目標としていた訪日外国人利用者数については、上述のとおり（1. 2（3）1）参照）、2019 年（令和元年）の推計値は、2015 年（平成 27 年）比で 1.5 倍～2 倍と増加傾向にあったが、目標年とされていた 2020 年（令和 2 年）は新型コロナウイルス感染症の影響によって訪日外国人利用者が激減したため、目標としていた 2.5 倍には届かなかった。

大山隠岐国立公園及び周辺地域における外国人対応ツアー・プログラム数は、2017 年度（平成 29 年度）時点では 6 であったが、2020 年度（令和 2 年度）時点では 29 に倍増した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により催行を休止しているものも少なくない。

外国人利用者満足度については、上述のとおり（1. 2（3）3）参照）、肯定的な評価であったものの、満喫プロジェクトを推進する先行 8 公園の平均値よりも下回る結果となった。

個別の取組目標の達成状況は下図のとおりで、検討・実施予定の段階に留まっているごく一部のものを除いて進展があり、全体の半分弱にあたる 125 項目は完了に至った（コラム参照）。検討・実施予定及び検討・実施中の段階にあるほとんどの項目と、検討・実施が終了した項目の一部は、これまでの進捗や成果、課題を踏まえて、継続的又は発展的な形で、本プログラムに引き継がれることになっている。相互に関連する取組を統合する等の整理を行った結果、本プログラムに引き継がれる項目数は計 121 となっている。これらを含め、本プログラム下で実施予定の取組の詳細については後述する（3 及び別紙 1 参照）。

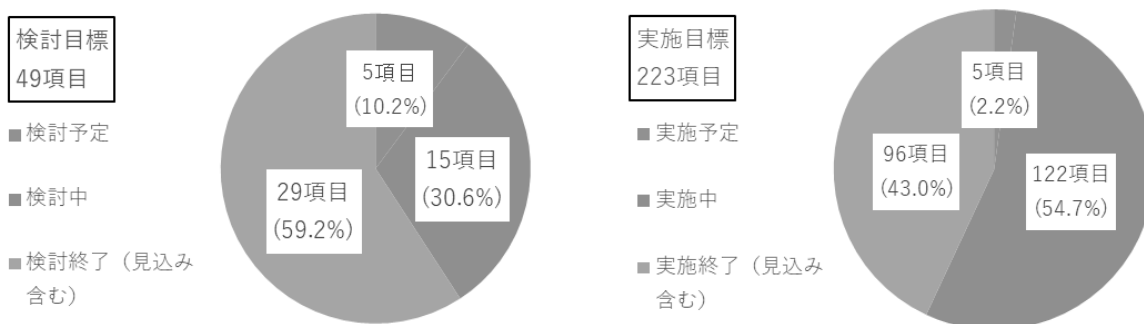


図 9 ステップアッププログラム 2020 に掲げられていた個別の取組目標の達成状況

保全と利用の充実化

- 大山頂上の避難小屋や木道等を改修するとともに、入山協力金の導入を検討するため社会実験を実施。



大山頂上

グランピングの販売

- 三瓶山地域において、自然、神楽を核とする歴史文化、地元の人との交流を楽しむアクティビティと組み合わせ、グランピング事業を実施。



神楽野外公演

ユニークなツアーの開発

- 三瓶山地域の大平山において、展望デッキ等を整備し、日の出を楽しむ体験プログラム「天空の朝ごはん」で活用。
- 大山蒜山周辺地域において、オオサンショウウオ保全体験ツアーを造成・販売。料金の一部は保全活動に還元。



周遊の促進

- 蒜山地域においてサイクリングロードに案内看板等を整備するとともに、サイクリングツアーを開発。蒜山野営場でのグランピングや「手ぶらでキャンプ」サービスと組み合わせたプロモーションを実施。



- 隠岐4島のサイクリングマップを作成するとともに、e-bikeを含めレンタサイクルを事業化。



- 島根半島東部の海岸線を巡る「神話語りとジオクルーズツアー」を造成・販売。



- 島根半島西部地域の名所を案内する周遊観光タクシー「うさぎ号」を造成・販売。



廃屋撤去による景観改善

- 大山寺地区において廃屋を撤去しカフェや地域特産品の販売を行う商業施設を整備。



官民による施設のリニューアル

- 大山寺地区の玄関口に位置する大山ナショナルパークセンター、大山自然歴史館、民間施設のコモレイト（ツアーデスク、カフェ、ホテル）の3施設を改修するとともに多言語化など機能強化。



大山ナショナルパークセンター



ツアーデスク

拠点施設の新設

- 隠岐地域の各島に情報発信施設を整備。



隠岐シオゲートウェイ



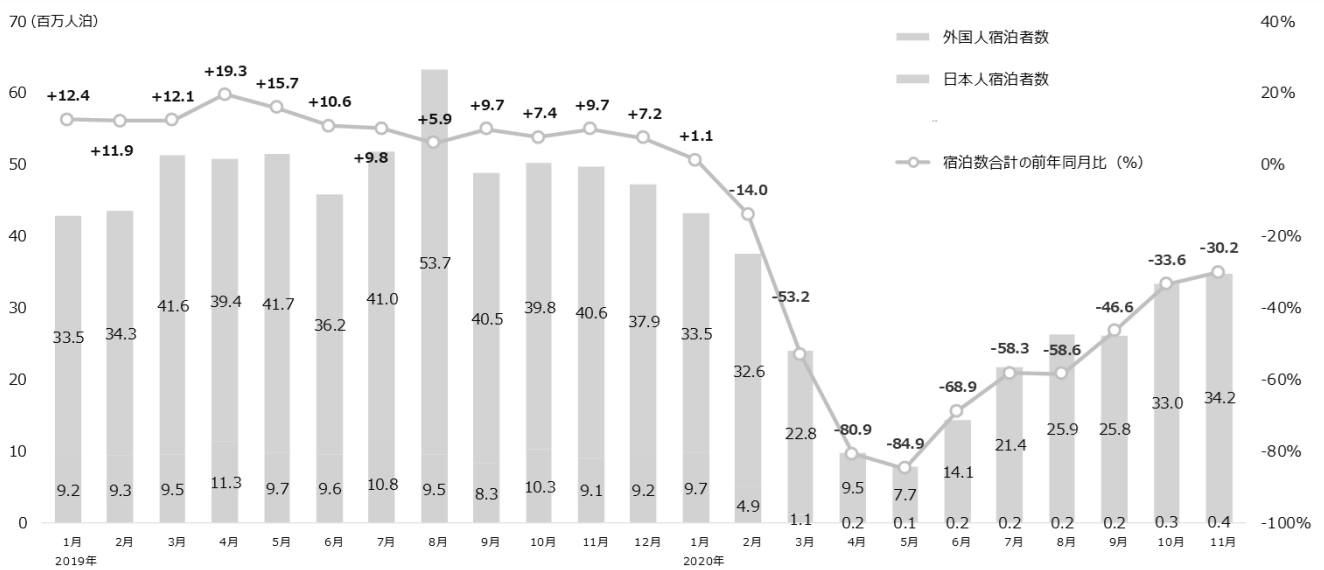
大山参道市場

1. 4 新型コロナウイルス感染症による影響

2020年（令和2年）1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、日本人及び外国人の旅行需要に大きな影響をもたらした。下図では、日本人旅行者と外国人旅行者の延べ宿泊者数の推移や、両者の合計値の前年同月比を示している。

日本人旅行者の宿泊数は2020年（令和2年）3月から大幅な減少がみられ、全国的な緊急事態宣言が発令されていた期間を含む同年5月を底に、その後は同年7月下旬に開始されたGoToトラベル事業の展開等を受けて一定程度の回復が認められるものの、例年の水準には達していない。

外国人旅行者の宿泊数は、同年2月から政府による入国制限措置や検疫の強化が段階的に実施されたことを受けて顕著な減少がみられ、5月には1万泊にまで落ち込んだ。2021年（令和2年）2月時点で、観光目的での入国は未だ認められておらず、外国人旅行者の回復はみられない。



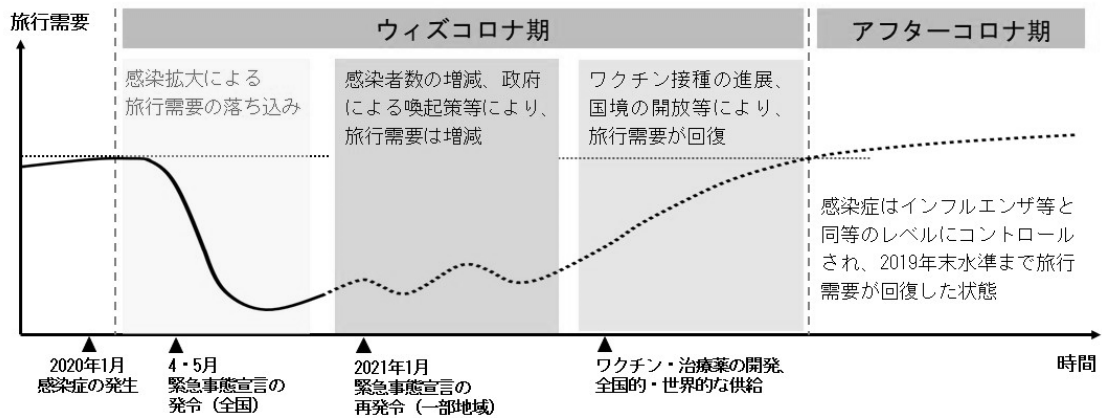
※ 観光庁 宿泊旅行統計調査をもとに作成

図 10 2019年及び2020年の各月における国内の宿泊施設における延べ宿泊者数

日本国内の感染者数は増減を繰り返しており、2020年（令和2年）4～5月の全国的な緊急事態宣言の発令後、2021年（令和3年）1月から11都府県を対象に緊急事態宣言が再度発令されるに至っている。同様の状況はアジア、欧州、北米等、世界の複数地域で生じている。

このような状況を踏まえると、新型コロナウイルス感染症が収束し、感染症拡大前と同水準の旅行活動が世界全体で可能となる状態（アフターコロナ期）に到達するまでには、一定の期間を要すると予想される。収束までの期間中、まずは国内の旅行需要が、次いで海外からの旅行需要が、情勢に応じて増減を繰り返しつつ、感染症拡大前の水準に向かって徐々に回復していくと考えられる（ウィズコロナ期）。

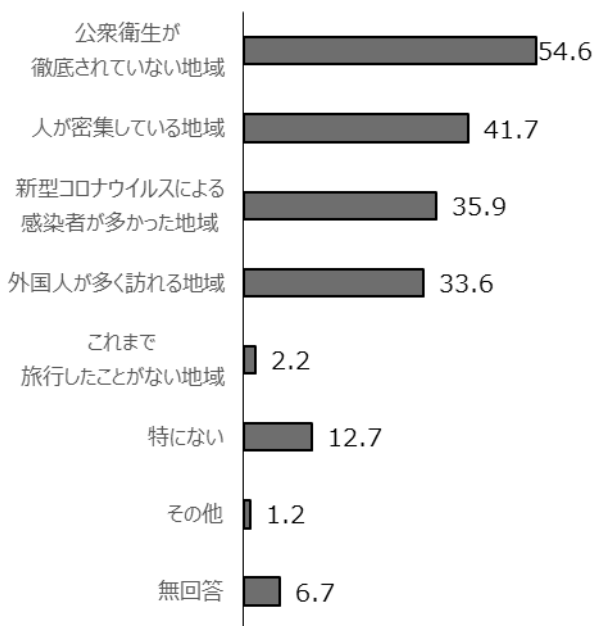
一定期間続くと考えられるウィズコロナ期には、旅行者には感染の予防と旅行活動を両立する「新たな旅のスタイル」の実践が求められる。また、旅行先となる地域においては、適切な感染症対策により旅行者と地域住民の双方に安全・安心な環境を整えるとともに、新たな旅のスタイルに合致する形で旅行先としての価値を提供することが求められる。



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査、厚生労働省 オープンデータ（新型コロナウイルス感染症について）をもとに作成。

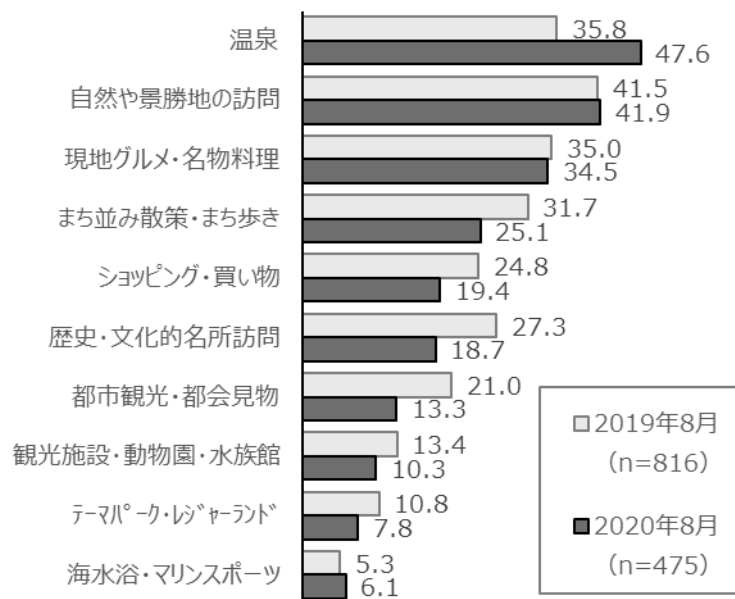
図 1 1 ウィズコロナ期・アフターコロナ期における旅行需要回復シナリオの概念図

このような視点から日本人旅行者の意向をみると、旅行先の選択において否定的に評価する要素として「公衆衛生が徹底されていない地域」、「人が密集している地域」等が高い割合で選ばれている。また、2020年（令和2年）8月に日本人旅行者が実施した旅行の内容を前年同月と比較すると、「温泉」、「自然や景勝地の訪問」の実施割合に増加が見られた。これらから、ウィズコロナ期の旅行においては公衆衛生や密の回避が重視され、温泉や自然資源、景勝地が好まれる傾向が示唆される。大山隠岐国立公園は、このような滞在環境や観光資源を豊富に有するため、ウィズコロナ期にあっても旅行先として高いポテンシャルを有するといえる。



出典：JTBF 旅行動向調査

図 1 2 新型コロナ収束後、あまり行きたくない地域（複数回答, n=1,042, 日本人のみ 2020/5/20～6/5 に調査）

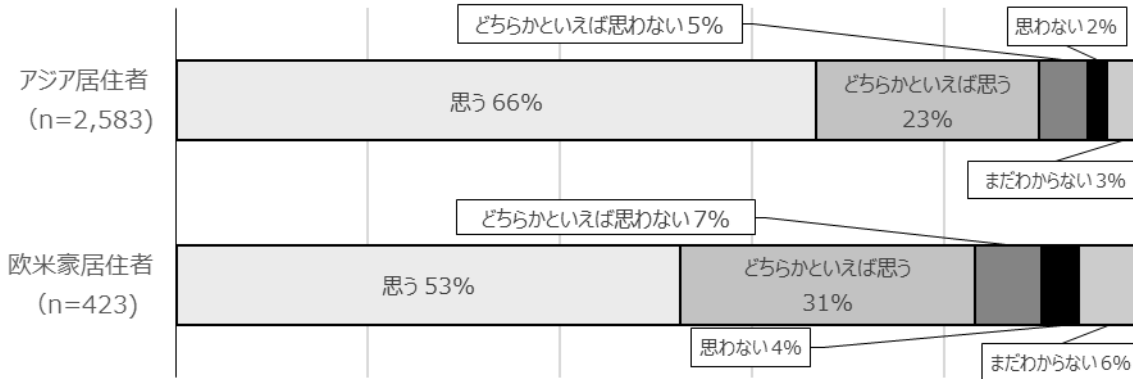


出典：JTBF 旅行実態調査

図 1 3 旅行中に実施した活動の内容・訪問先（複数回答、日本人のみ）

外国人旅行者の需要の回復は、観光目的での国際的な移動が可能となるまで待つ必要があるため、日本人旅行者の回復よりも遅れることになる。一方で、訪日経験のある海外居住者を対象とした意向調査では、感染症収束後の海外観光旅行に対して80%以上の回答者が実施意欲を示している。

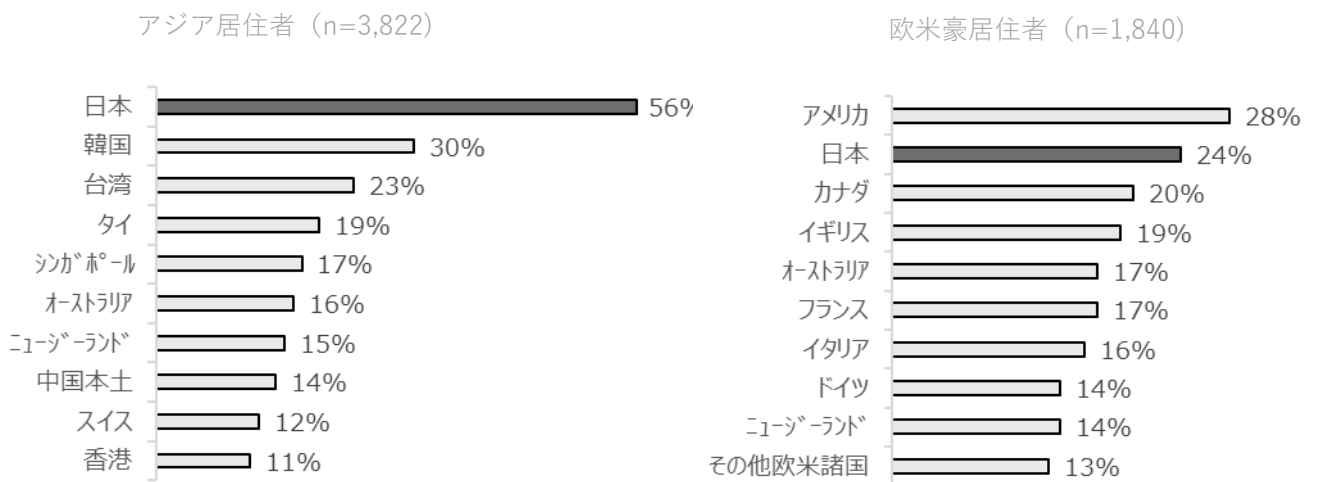
Q. 新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、平常状態に戻ったとき、また海外観光旅行をしたいと思うか



出典：アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナ影響度特別調査）（DBJ・JTBF）
 アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者を対象に、2020/6/2～6/12に調査

図 14 海外居住者（アジア・欧米豪）の海外観光旅行に対する意向

また、旅行したい国・地域については、日本は、アジア居住者による回答では1位に、欧米豪居住者による回答では2位に選ばれている。



出典：アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナ影響度特別調査）（DBJ・JTBF）
 アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者を対象に、2020/6/2～6/12に調査

図 15 海外居住者が新型コロナ収束後に観光旅行したい国・地域（上位10の国・地域）

これらから、感染症を経てもなお国際的な観光旅行の需要は存続しており、かつ、訪問先として日本は高い人気を誇る事が示唆される。また、同調査においては、訪日旅行全般に期待したいこととして「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」が、最も多く選択された。公衆

衛生が評価される点は日本人旅行者と同様であり、外国人旅行者の需要回復にあっても、このようなニーズに対応していくことが求められる。

2 目標

2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ）

大山隠岐国立公園が擁する多彩な資源の魅力を活用し、利用の促進を図っていく上でのテーマを、以下のとおり設定する。

神話と山岳信仰が息づく暮らしとともにある 山・島・海

大山隠岐国立公園は、中国地方最高峰の大山のほか、船上山、蒜山、三徳山、三瓶山等の山々と、ユネスコ世界ジオパークに認定されている隠岐諸島、日本ジオパークに認定されている島根半島海岸部から成る、山と島と海の国立公園である。この国立公園は、神話や山岳信仰の舞台となっており、出雲大社をはじめとする神話にまつわる名所旧跡が点在し、山岳信仰の霊場であり開山 1,300 年の歴史を有する大山や三徳山を擁する。伝統的な神事や祭りが今もなお数多く執り行われているなど、神話や山岳信仰とともに受け継がれてきた暮らしが、山と島と海の自然風景の中に溶け込んでいる。日本の原風景と言える暮らしに触れながら、山と島と海での多彩なアウトドア・アクティビティを楽しむ点が、他の場所にはない、大山隠岐国立公園の魅力である。

2. 2 ターゲットとする利用者層

大山隠岐国立公園への誘客を図る主な利用者層は、以下のとおりとする。

以下、大きな方向性は変更しないが、旅行者動向等の最新の情報を踏まえて更新

(1) 日本人利用者

1. 2 (2) で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する旅行者の出発地となることの多い近畿地方及び中国地方の居住者を第一のターゲットとする。主な一次交通は、自動車、鉄道、高速バスを想定する。他の地域と比較して、来訪時の時間的・金銭的負担が軽く、大山隠岐国立公園の認知度や、リピーター率も比較的高いと考えられる。入込客数や宿泊数等の「量」を持続的に確保しつつ、滞在日数・消費額・満足度・リピーター率等の「質」の向上を図る。

さらに、従前から一定数の来訪がみられる首都圏居住者を第二のターゲットとする。主な一次交通は、空路を想定する。羽田直行便が就航する空港が周辺地域に複数存在するという大山隠岐国立公園の強みを活かし、魅力的かつアクセス性の高い旅行先として、首都圏における認知度の向上と、誘客の実現を図る。

性別については、旅行先の決定に影響をもつと考えられる女性に着目する。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、関心が高まりつつあるワーケーション等の新たな需要の獲得を図る。

(2) 外国人利用者

東京や京都といった国内の主要な観光地を訪問した経験があり、2回目以降の中長期の滞在を通じて、さらに深く日本を知りたいと考えている訪日旅行リピーターを、主なターゲットとする。

国・地域別では、1. 2 (3) で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する外国人旅行者のうち構成比率の高い台湾、香港、中国、そして欧米豪諸国を主なターゲットとする。なお、2019年(令和元年)以前は構成比率が高かったものの、新型コロナウイルス感染症とは別の要因で利用者が減少した韓国については、今後利用の回復が見られる場合にはターゲットに含めることを念頭に置き、状況を注視する。大山隠岐国立公園内の地域間でも、来訪者の国・地域別の構成比は異なることから、必要な場合は各地域でターゲットとする国・地域を設定する。

~~当面は、新型コロナウイルス感染症による日本への入国制限の状況等を注視しつつ、それぞれの国・地域の人々の関心やニーズを考慮してプロモーションを実施し、大山隠岐国立公園の認知度の向上を図るとともに、受入環境整備を着実に進める。その上で、入国が可能となった圏域から順に、誘客を図る。~~

2. 3 目標

本プログラムの目標は、以下の通りとする。

基本的な方向性は変更しないが、地域の自然や文化の維持・再生は地域社会の持続可能性への貢献を明記。

I. ~~大山隠岐国立公園ならではの魅力を感じられる~~自然と文化を活かした上質な滞在体験観光を提供し、~~同時に地域の自然と文化の維持・再生に貢献する大山隠岐国立公園ならではの魅力を極める。~~

※満足度や滞在日数など、滞在の質に関する内容。地域の自然・文化の維持・再生に貢献。

II. ~~新型コロナウイルス感染症による影響前の水準まで~~国内外からの利用者数を一層増加回復させるとともに、~~地域社会の持続可能性の向上に貢献する。~~

※利用者数に関する内容。地域経済への貢献による地域社会の持続可能性の向上を目指す。

2. 4 取組の方針

目標を達成するための取組の方針を、以下のとおり設定する。

以下、必要に応じて記載内容を拡充。

(1) 自然と調和した「持続可能な観光」の実現

大山隠岐国立公園の自然の魅力を損なうことなく、自然の保全と両立する持続可能な形で、利用を推進する。利用料の一部を保全活動に還元するなど、利用者負担の保全の仕組みづくりにも取り組む。さらには、自然のみならず環境全般や社会文化、経済への影響に十分に配慮した「持続可能な観光（サステイナブル ツーリズム）」を進め、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献することを目指す（~~18ページのコラム参照~~）。

(2) 感動を与える体験の提供

自然を含む地域資源の四季折々の魅力を最大限引き出した「今だけ」「ここだけ」の体験を利用者に提供できるよう、雨天時の対応も考慮したツアー（旅行商品）開発やガイドの育成等を一層進める。また、広域にまたがる大山隠岐国立公園の見どころをより多く楽しんでもらえるよう、サイクリングロードやロングトレイル（長距離自然歩道等）も活用して、国立公園内の地域間や周辺地域と連携し、周遊を促進する。

(3) 多様な利用・需要に応じたサービスの提供

外国人を含め、ファミリー層、若年層、障害者、富裕層等の幅広い利用者層や、新型コロナウイルス感染症対策、ワーケーションやグランピングのような新たな滞在・宿泊形態、キャッシュレス決済の導入等の多様な需要に応じたサービスの提供を図る。これによって同時に、社会情勢や利用の需要を含め市場環境の変化に強い安定的な集客を目指す。

(4) 安全・安心の確保と、利便性と景観の向上

施設の整備や復旧、改修を進め、利用者の安全・安心の確保や、障害の有無や年齢、言語等の違いを問わず多くの人が利用できるユニバーサルデザイン化、国立公園にふさわしい上質なまちなみの形成を図る。

(5) 戦略的な誘客・プロモーションの実施

大山隠岐国立公園の関係機関・団体のみならず、他の国立公園を含む周辺地域の機関・団体、政府観光局（JNTO）や航空会社等の全国規模の組織とも連携して、着実に認知度を高め、来訪の動機を醸成し、来訪のプランニングを助けるような、旅行者が来訪に至るまでの各段階に対応し、かつ、心に残る誘客・プロモーションを行う。同時に、魅力的な観光地域づくりにつながるよう、地域の魅力について住民に改めて周知を図る。

2. 5 指標

目標の達成度を図る指標は以下とする。なお、必要に応じて、追加的な指標を設定し参照する。

満喫プロジェクト全体の取組方針を踏まえ、内容を拡充するとともに目標値を設定。

(1) 目標Ⅰに対応する指標

指標	区分	対象	検証方法	実施単位
① 一人あたり消費額	継続	日本人・外国人旅行者	タイプA	公園全域
② 一人あたり滞在日数	継続	日本人・外国人旅行者	タイプA	公園全域
③ リピーター率	継続	日本人旅行者	タイプA	公園全域
④ 利用者満足度	継続	日本人旅行者	タイプA	公園全域
⑤ 国立公園の認知割合	新規	日本人・外国人旅行者	タイプB	公園全域
⑥ 利用者推奨度	新規	日本人・外国人旅行者	タイプB	公園全域
⑦ ツアー稼働数	新規	観光関連事業者	タイプC	各地域
⑧ ツアー提供数	継続	観光関連事業者	タイプC	各地域

<検証方法>

- タイプA：国立公園満喫プロジェクトの一環として、環境省で実施する全国的な調査の結果のうち、大山隠岐国立公園に係る結果を用いる。必要に応じて補完調査を行う。
- タイプB：環境省で実施する全国的な調査データを用いて把握する。
- タイプC：事業者の協力を得て、大山隠岐国立公園及びその周辺地域で実施されているツアーについて調査し、把握する。

(2) 目標Ⅱに対応する指標

指標	区分	対象	検証方法	実施単位
日本人旅行者 延べ宿泊者数	継続	日本人旅行者	タイプE	公園全域
外国人旅行者 延べ宿泊者数	継続	外国人旅行者	タイプE	公園全域
クルーズ船等 の利用者数	継続	日本人・外国人旅行者	タイプF	公園全域

<検証方法>

- タイプE：観光庁が実施する「宿泊旅行統計調査」の結果のうち、大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村内の宿泊施設に宿泊した旅行者の延べ宿泊者数を算出する。
- タイプF：境港に寄港したクルーズ船等の利用者のうち、大山隠岐国立公園内に行くツアーの参加者数等から推計する。

✓コラム「持続可能な観光」と「持続可能な開発目標（SDGs）」

国連世界観光機関（UNWTO）は、「持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）」を、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」と定義している。こうした考え方に加えて、観光のもつ広範な影響力から、観光分野は、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能なより良い世界の実現を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」の17のゴール全てに、直接的又は間接的に貢献できるとされている。

持続可能な開発目標（SDGs）への観光分野の貢献の例（国連世界観光機関発行のリーフレットを参考に掲載）

<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p><u>ゴール1</u></p> <p>雇用の創出を通じて収入の機会を提供</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p><u>ゴール7</u></p> <p>再生可能エネルギーへの移行を促進し、地域のエネルギー対策にも貢献</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p><u>ゴール13</u></p> <p>運輸や宿泊部門等において、エネルギー消費を削減し、再生可能なエネルギー源に転換</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p><u>ゴール2</u></p> <p>観光地における地場産品の生産・利活用・販売の促進等によって農業の生産性を向上</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p><u>ゴール8</u></p> <p>働きがいのある雇用機会を提供し、経済成長を推進</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p><u>ゴール14</u></p> <p>海洋生態系・資源を保全し、持続可能な形で利用</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p><u>ゴール3</u></p> <p>観光による経済成長を通じて健康や福祉に波及効果をもたらす</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p><u>ゴール9</u></p> <p>インフラの強化と産業の革新を持続可能で資源効率の高い形で促進</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> 	<p><u>ゴール15</u></p> <p>陸域生態系の保護と再生、持続可能な利用を促進</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p><u>ゴール4</u></p> <p>職業訓練への投資を促すとともに、生涯学習の機会を提供</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p><u>ゴール10</u></p> <p>地域振興を促進し、地域間格差を是正</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p><u>ゴール16</u></p> <p>多様な文化的背景をもつ人々との出会いを通して、文化や信仰を越えた寛容と理解を育む</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p><u>ゴール5</u></p> <p>収入の機会を通じて女性の自立促進・地位向上を推進</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p><u>ゴール11</u></p> <p>住民だけでなく観光客も恩恵を受けられる環境に優しいまちづくりを推進</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	<p><u>ゴール17</u></p> <p>官民連携や多様な利害関係者の連携を強化</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p><u>ゴール6</u></p> <p>観光における効率的な水の利用と適切な排水管理・汚染防止</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p> 	<p><u>ゴール12</u></p> <p>持続可能な消費と生産を实践</p>		

3 優先的な取組

大山隠岐国立公園満喫プロジェクトとして、優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載する。~~個別の取組の一覧は別紙1に示す。~~

基本的な構造は変更しないが、次の観点から内容を更新・拡充する（具体的記載については今後、構成員に意見照会）

- ・ 先端モデル事業（宿泊施設を中心とした利用拠点の魅力向上）による保護と利用の好循環創出・広域連携
- ・ ジオパーク・日本遺産等との連携強化
- ・ 自然体験活動計画の作成等を通じた体験プログラムの充実化や、ガイド育成等による利用の質の向上
- ・ 入山協力金制度の発展
- ・ 保全（外来種対策・利用者への普及啓発・シカ対策等）の取組拡充
- ・ 自然共生サイトや自然再生事業との連携
- ・ 老朽化した施設の計画的な再整備
- ・ 国立公園の保護・利用に係る計画の改定

3. 1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組

(1) 国立公園全域における優先的な取組

1) 広域の周遊促進、二次交通対策

- ・ 個人旅行を行う訪日外国人を対象とする、中国5県の観光施設の入場券等を盛り込んだスマートフォンアプリの観光パス「Discover Another Japan Pass」について、JRや高速バス、路線バス等の外国人向けの交通商品の購入機能を持たせるなど、利便性の向上を図る。

2) 誘客・プロモーションの実施

- ・ 大山隠岐国立公園への来訪者や地域の在住外国人による発信力も借りながら、動画配信サイトを含むSNSやウェブサイト上で大山隠岐国立公園の魅力を発信し、認知度の向上と来訪動機の醸成を目指す。
- ・ 大山隠岐国立公園とその周辺地域における体験ツアー等について、瀬戸内海国立公園や山陰海岸国立公園等と連携した広域のものを含む周遊ルートの情報と合わせて、オンライン・トラベル・エージェント（OTA）や商談会等の機会を活用して、プロモーションを行う。
- ・ 日本の国立公園の魅力を国内外に発信することを目的とする「国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム」を締結している企業や団体との連携を推進する。

(2) 島根県内の4地域における優先的な取組

1) 自然環境の保全、体験ツアーの充実化

- ・ 2022年度末（令和4年度末）の大山隠岐国立公園（隠岐島・島根半島・三瓶山地域）の公園計画の変更（第3次点検）において記載された自然体験活動計画を踏まえ、市町村等からなる協議会による自然体験活動促進計画の作成等を通じて、質の高い自然体験活動を促進する。

- ・ 希少野生動植物や在来種の保全活動を体験ツアーとして開発し、持続可能な取組となるよう検討する。
- ・ 朝・夕のプログラム開発など更なる体験の充実に取り組み、宿泊を伴う滞在の延長を促進する。

3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組

(1) 大山蒜山三徳山地域の概要

大山蒜山三徳山地域は、中国地方最高峰の大山から蒜山と毛無山に亘る山地一帯と、三徳山一帯から成り、豊かな自然を有する。大山の山頂付近には国指定特別天然記念物に指定されている国内最大のダイセンキャラボク群落が分布するとともに、固有種のダイセンアシボソスゲをはじめとする高山植物が多く生育しており、中腹には西日本最大規模のブナ林が広がる。蒜山はなだらかな山容を有しており、その麓には草原景観が広がる。毛無山にはまとまった面積のブナ林が残っており、三徳山では照葉樹林から落葉広葉樹林へと標高に沿って移行する植生の垂直分布が見られる。この地域は動物相も豊かであり、鳥類ではイヌワシやクマタカ、ブッポウソウ等、両生類ではオオサンショウウオ等、昆虫類ではフサヒゲルリカミキリやゴマシジミ等の絶滅危惧種を含む多くの種が生息している。

このような豊かな自然を保全するための官民の取組が各地で行われてきている。特に、1985年（昭和60年）から続けられている、登山者の踏圧により裸地化した大山山頂の植生復元の取組「一木一石運動」は、オーバーユースに対する先進的な取組として全国的にも有名である。

また、この地域は、大山、船上山及び三徳山が伯耆三嶺（ほうきさんれい）と称され、古来より山岳信仰の霊場となってきたこと等を背景に、文化資源も豊富である。大山と三徳山は開山1,300年以上の歴史をもち、それぞれ日本遺産としての認定を受けている。また、国宝である三徳山の投入堂や、国指定重要文化財である大神山神社奥宮や大山寺阿弥陀堂、三佛寺文殊堂等、国指定史跡である船上山行宮跡等の多数の文化財が現存する。

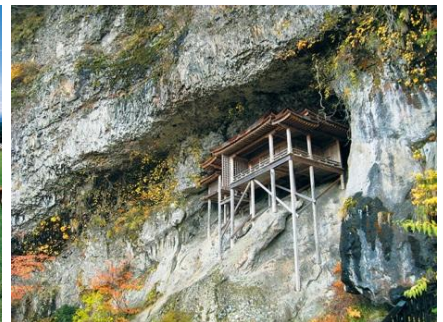
利用については、大山や榎水高原、船上山、大山滝、蒜山三座等での登山・ハイキングや自然探勝、大神山神社や三徳山三佛寺等の寺社参詣、大山寺地区や奥大山・鏡ヶ成、蒜山高原でのキャンプ、スキー、サイクリング等が挙げられ、四季を通じた多様な利用がなされている。とりわけ大山は標高1,729m（剣ヶ峰）の独立峰で、山頂周辺では眼下に日本海が見えるほか、隠岐諸島、蒜山三座や三瓶山、中国山地の山々も望める360度の眺望が開け、年間6万人前後の国内外からの登山客で賑わっている。



大山



蒜山高原・蒜山三座



三徳山投入堂

図 16 大山蒜山三徳山地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 大山寺及び大山山頂

(地区概要)

大山寺地区は、大山登山の出発点であるほか中国地方で最大規模のスキー場があるなど自然を楽しむアクティビティの核心地であるとともに、一帯が国の史跡「大山寺旧境内」として指定されている文化財であり、さらには旅館やホテル、キャンプ場が隣り合う宿泊拠点でもある。大山登山やスキーに加え、大神山神社奥宮や大山寺への参詣、周辺のブナ林の散策、カフェやショップの利用等が楽しまれている。

大山の最高峰は標高 1,729m の剣ヶ峰であるが、崩落のため剣ヶ峰に至る縦走路は立入りが禁止されており、登山者が行くことのできる頂上は標高 1,709m の弥山となっており、ここでいう大山山頂も弥山を指す。大山山頂には、いずれも大山寺地区を出発点とする夏山登山道と、これに5合目付近で合流する行者谷登山道からアクセスできる。大山山頂では、その優れた景観の維持と利用を両立させるため、木道や避難小屋等の必要な施設を整えとともに、地元団体やボランティアによる植生復元や施設の維持のための活動が盛んに行われている。

(優先的な取組)

① 協力金等を活用した大山の保全と持続可能な利用

- ・ 入山協力金制度の本格導入に向けて、実証実験等を実施する。

② 自然・文化体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ 星空観察ツアーや日本遺産「大山」のストーリーを活かしたツアー等、大山寺を発着点等とするツアーの充実化・磨き上げを行うとともに、ガイドの育成を推進する。



③ 施設の整備・改修、まちなみ景観の改善

- ・ 植生保護のための山頂付近の木道を含め、大山5合目から山頂までの区間の登山道を改修するとともに、元谷から大山寺に至る区間において誘導看板等を設置し、登山者の利便性を向上させる。
- ・ 安全・安心なアウトドア拠点施設として、夏山登山道下山口と南光河原駐車場登山口の交差部に、自動翻訳機による無人インフォメーション機能を有し、新型コロナウイルス感染症防止対策の一環としてのサーモカメラ、登山届ポスト等を併設する総合案内所を整備する。
- ・ 外国人利用者のニーズも考慮した運営を行うことを念頭におき、民間事業者の知見を活用してキャンプ場再整備を実施する。
- ・ 大山寺参道周辺における老朽化施設の改修等を行い、まちなみ景観の改善を図る。

2) 奥大山・鏡ヶ成

(地区概要)

奥大山は大山の南壁から岡山県との県境までの地域を指し、鏡ヶ成を含む。鏡ヶ成は、烏ヶ山、象山及び擬宝珠山に囲まれた標高 930m の盆地状の高原で、登山や湿原散策、ピクニック、キャンプ、

スキー等が楽しまれている。鏡ヶ成湿原では、地下水位の低下等が原因となり生態系の劣化の傾向が見られたことから、2000年（平成12年）から湿原再生の取組が行われている。その他の奥大山の見どころとしては、紅葉の名所である鍵掛峠や、静謐な雰囲気の木谷沢溪流が挙げられる。豊かな自然の恵みであるミネラルウォーターの採水地や工場もある。

（優先的な取組）

- ① 湿原と草原の保全と持続可能な利用
 - ・ 鏡ヶ成湿原・草原の保全・再生と利活用のための取組を実施する。
- ② 観光振興に向けた検討
 - ・ 新たな観光地化を目指して、現在休止中の奥大山スキー場やその周辺の施設、観光資源の活用計画を策定し、同計画に基づき整備を進める。



3) 蒜山

（地区概要）

蒜山は、岡山県と鳥取県の境に位置する上蒜山、中蒜山、下蒜山から成る連山の蒜山三座と、その裾野に広がる蒜山高原で構成される。山麓の草原景観の維持や、草原に生息するフサヒゲルリカミキリ等の絶滅危惧種の保護のため、地元団体やボランティアにより山焼き等の保全活動が行われている。蒜山高原は、避暑地やリゾート地として知られている。高原や田園の牧歌的な風景の中を走るサイクリングをはじめとして、登山やキャンプ、日本名水百選の一つである「塩釜の冷泉」や周辺の観光・食事施設の周遊が楽しまれている。

（優先的な取組）

- ① 自然環境の保全と持続可能な利用
 - ・ 蒜山自然再生協議会を設立し、自然資源の持続的な保全活用や観光の在り方を内容に含む自然再生全体構想と実施計画を策定し、山焼きを持続的に行う体制整備や、草原再生のための活動の実施、持続的な取組とするための資金調達手法について検討する。
 - ・ 蒜山大山スカイライン沿線においてナラ枯れ被害木の伐倒整理を行う。
- ② 体験ツアーの充実化、ガイド等の育成
 - ・ 蒜山地区の観光に係る基礎知識の習得や感染症対応を含む接客スキルの向上、誘客のための発信等について、ガイド等への研修を実施する。
- ③ 施設の整備・改修
 - ・ 塩釜園地内の湿生植物園を親水公園に再整備する。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然環境の保全

- ・ シカの生息状況調査と、個体数を減少させるためシカの捕獲を行うとともに、必要に応じて植生保護のための対策等を検討する。
- ・ ナラ枯れ被害木の適切な処理や森林の手入れによって、被害の拡大の防止と利用者の安全の確保を図る。

2) 周辺地域との連携による周遊・滞在型観光の推進

- ・ 大山蒜山三徳山地域内での周遊や、島根半島東部地域にまたがる周遊を促進するルートを充実化するとともに、ファミトリップの実施等を通じて、その情報を発信する。
- ・ 周辺地域のキラークンテンツであるオオサンショウウオ保全体験ツアーの磨き上げや生息地保全の取組を行うとともに、大山蒜山三徳山地域等への周遊を促す形で情報発信を行う。

3) 施設の整備・改修

- ・ 大山滝吊橋を改修するとともに、中国自然歩道の一向平から三徳山に至る区間において歩道の改修や標識整備等を行う。
- ・ 三徳山において休憩施設を新設するとともに、蜜坊駐車場におけるトイレの新設について検討する。
- ・ サイクルツーリズムの聖地化を目指して、各種誘導看板や路面標示等を設置し、ユーザーの利便性を向上させる。
- ・ 大山周辺のロングトレイル上にある老朽化したベンチやテーブル等を改修し、利便性の向上と安全・安心の確保を図る。

3. 3 隠岐地域で実施する取組

(1) 隠岐地域の概要

隠岐地域は、島根半島の沖合約40～80kmに浮かぶ島後（島）、西ノ島、知夫里島、中ノ島の4つの有人島の海岸線周辺と、島後の大満寺山系から成る。西ノ島、知夫里島、中ノ島とそれらの周辺の無人島は、群島として島前と呼ばれる。

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部であった時代、湖底及び海底にあった時代、火山活動によって隆起した時代、島根半島と陸続きになった時代等を経て形成されたと考えられている。このような地質学的な成り立ちや、対馬暖流の影響により、隠岐諸島には南方系と北方系の植物が共存するなど、特有の生態系が形成されており、オキシヤクナゲ、オキタンポポ、オキサシヨウウオ、オキノウサギ等の固有種・固有亜種も生育・生息する。

文化的側面からは、遠流の島として後鳥羽上皇、後醍醐天皇ゆかりの地や資料が多く存在することや、祭や神事、古典相撲や牛突き等の多様な文化が受け継がれていること等が特筆される。

学術的価値の高い地質学的な成り立ちや、北方系・南方系の植物が共存する独自の生態系、古代から続く人の営みとの3要素が総合的に評価され、隠岐諸島は2013年（平成25年）に世界ジオパーク（現：ユネスコ世界ジオパーク）に認定されている。

代表的な見どころとしては、島後では浄土ヶ浦の多島海景観、最北端の断崖である白島海岸、よろい岩やローソク島等が、島前では三島に抱かれた穏やかな内海景観や、海蝕によって生み出された断崖である摩天崖（国賀海岸）や赤壁、明屋海岸が挙げられる。また、2022年度末（令和4年度末）の公園区域及び公園計画の変更（第3次点検）により、島後の壇鏡の滝が公園区域として新たに編入された。

利用については、春季から秋季を中心に、主要4島間の周遊、遊覧船や遊歩道沿いでの自然探勝、シーカヤックや釣りをはじめとする各種マリンアクティビティ、寺社参詣や史跡の訪問、サイクリング等が楽しまれており、一年を通じた体験メニューとしてトレッキングツアーの開発も進められている。



ローソク島



赤壁



国賀海岸（摩天崖）

図 17 隠岐地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 浄土ヶ浦・大満寺山・鷲ヶ峰

(地区概要)

浄土ヶ浦海岸は優れた多島海景観を有し、他の地域では見られない北方系、南方系、大陸性の植物の混在が観察できる島後における屈指の見どころである。ここでは遊歩道の散策やデッキからの景観鑑賞以外にも、キャンプ、シーカヤック、休憩施設での食事等が楽しまれている。周辺の大満寺山、鷲ヶ峰では、若者を中心にトレッキングを楽しむ人が増加しており、屏風岩、トカゲ岩といったジオサイトや自然回帰の森では、奇岩とともに隠岐の固有種であるオキシクナゲなど様々な植物を観察できることから人気が高い。

(優先的な取組)

① 自然体験アクティビティの充実化

- ・ 民間事業者と連携して、通年型のトレッキングツアー、シーカヤックツアー等の自然資源を活用したアクティビティの充実について検討する。



② 施設の整備・改修

- ・ キャンプ場や遊歩道等を再整備し、受入環境の向上を図る。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ 隠岐地域におけるシーカヤック、トレッキング等のアクティビティの充実を図るため、新たなコースの開拓、認定ガイドの育成、マップ等の作成、ツアー催行体制の整備を行うとともに、旅行商品の造成・販売等を実施する。
- ・ 隠岐の島町の「隠岐ジオゲートウェイ」、海士町の「Entô」などの各島にある整備済み又は整備中の各島の情報拠点施設を活用してツアーの商品化を行う。

2) 施設の整備・改修、景観の改善

- ・ 2020年度(令和2年度)に(一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会が策定した施設整備計画に基づき、案内看板・誘導標識等を整備するとともに、老朽化した施設の撤去を計画的に行う。

3) 周遊・滞在型観光の推進と観光案内

- ・ (一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と隠岐観光協会と合併、DMO 登録することにより、「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」の豊かな地域資源を活かした旅行商品の造成と、マーケティング結果に基づく効果的なプロモーションを実施し、隠岐諸島への誘客を促進する。

3. 4 島根半島東部地域で実施する取組

(1) 島根半島東部地域の概要

島根半島東部地域は、半島東端の地蔵崎から西は鹿島町御津へ至る海岸線周辺の一帯である。海岸線には半島や入り江、断崖絶壁が連続する複雑な地形が形成され、国指定名勝天然記念物である加賀の潜戸（くけど）、国指定天然記念物である多古の七ツ穴等の特異な海食景観が成立しており、2017年（平成29年）から日本ジオパークに認定されている。海岸山地には関の五本松に代表されるクロマツや、カシ類・シイ類・ヤブニッケイ等の常緑広葉樹林がみられる。また地蔵崎は小鳥類の春の渡りの中継地となっており、シロハラホオジロやカラアカハラ、ヤツガシラ等の珍しい種も観察されている。

文化的側面からは、この地域は国引き、国譲りに代表される神話の主要な舞台である。周辺には、国譲り神話に由来する青柴垣神事や諸手船神事をはじめとする各種神事が継承される美保神社や、雲津浦の諏訪神社など、神話に由来のあるものが多い。

近世以降には日本海航路の啓開に伴って複数の要港が設置され、地蔵崎の美保関灯台や、かつて海上からの目印となった関の五本松等から、その経歴を伺うことができる。関の五本松を唄った「正調関乃五本松節」は、安来節と共に本邦の代表的な民謡として知られている。

利用については、美保神社の参詣と組み合わせた地蔵崎や五本松公園周辺の散策、遊覧船による加賀の潜戸や多古の七ツ穴等の自然探勝のほか、海水浴や釣り、シーカヤック等が楽しまれている。また、出雲大社と美保神社の両社に参拝する「えびすだいこく両参り」、四十二浦巡り等、域外各地と組合せた周遊観光も行われている。



加賀の潜戸



多古の七ツ穴



地蔵崎

図 18 島根半島東部地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 五本松公園・地蔵崎園地

(地区概要)

地蔵崎園地は、大山の稜線から昇る日の出や日本海に沈む夕日を見ることができ、見通しのいい日には、隠岐諸島を望むことができる展望地である。「世界の歴史的灯台百選」に選ばれた石造りの白く美しい美保関灯台がそびえている。春には北に向かう渡り鳥が多く観察される野鳥スポットでもある。五本松公園には約 5,000 本のツツジが植えられており、特にツツジが咲く春は大山や美保湾の眺望と合わせて楽しまれている。五本松公園から地蔵崎までは遊歩道でつながっており、トレッキングを楽しみながら島根半島特有の植生や渡り鳥を観察できる。

(優先的な取組)

① 体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ サイクリングやトレッキング、クルーズ等のアクティビティと、キャンプを組み合わせたツアー等の開発や誘客対策について検討する。併せて、これらのメニューに合わせたインストラクター型のガイド育成を推進する。



② 施設の整備

- ・ 国立公園内の他の地域と連携して、サイクリングルートの設定を行うとともに、地蔵崎園地内へのサイクルステーション設置に向けて検討を行う。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 周遊ルートやツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ えびすだいこく両参り、えびすだいこく 100 キロマラソン、出雲日御碕灯台・美保関灯台など、島根半島東部・西部地域間の繋がりを更に発展させ、若者や女性をターゲットとする縁結びを題材にした周遊ルートの設定やツアーの開発を検討する。
- ・ 島根半島東部を核とする広域的な利用ルートとして、松江しんじ湖温泉や松江城等と島根半島、境港、大山方面等を結ぶロングトレイルルート、サイクリングルート、ウォーキングルート等の設定を検討する。
- ・ 豊かな自然と共存する地域の暮らしや伝統文化・歴史、日本ジオパークに認定されている特徴的な地質・地形、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海も活かした、国立公園を核とする広域的な島根半島の周遊コースを検討する。
- ・ 特徴的な地質・地形や歴史・文化及びジオパークの魅力を発信できるジオガイドの育成とレベルアップを図る。

2) ワークーション滞在の促進

- ・ 豊かな自然と共存する地域の暮らしや伝統文化・歴史等を活かしたワークーションツアーの開発とそれに伴う受入環境整備を検討する。

3) 施設整備・改修

- ・ 主要なアクセス経路上において、良好な景観を眺められる駐車・休憩ポイント等の整備を行う。
- ・ 桂島海岸・加賀の潜戸・多古鼻において、シーカヤック、ダイビング、トレッキング等のアクティビティに対応したサービスの充実化を図るため、必要な施設整備を検討する。

3. 5 島根半島西部地域で実施する取組

(1) 島根半島西部地域の概要

島根半島西部地域は、鷺浦から島根半島西端の日御碕を経て出雲大社周辺に至る海岸線周辺の一帯である。北側の海岸線には半島や入り江が連続する複雑な地形を有し、鷺浦の縦穴海食洞、日御碕の隆起海岸等、特色ある景観が見られ、島根半島東部地域と同様、2017年（平成29年）から日本ジオパークに認定されている。この地域の海岸沿いにはクロマツの風衝林がみられ、出雲大社境内には良好なスダジイの照葉樹林がみられる。海中にはホンダワラ類やアラメ、エビアマモ等の海藻林が生育している。日御碕には、ウミネコの集団繁殖地で国の天然記念物に指定されている経島やカスミサンショウウオの生息地がある。

文化的側面からは、出雲大社が鎮座し、多くの観光客を惹きつけている。各地で年間を通して様々な神事が執り行われるが、中でも旧暦10月に、稲佐（いなさ）の浜に八百万の神々をお迎えする神迎祭（かみむかえさい）には、国内外から多くの観光客が訪れる。また、江戸時代に北前船が寄港した鶴鷺（うさぎ）地区には、美しい自然と赤瓦の古い街並みが残されている。この地域を包含する形で、「日が沈む聖地出雲」として日本遺産に認定されている。

利用については、出雲大社や日御碕神社の参詣、出雲日御碕灯台の参観や、その周辺での自然散策が主に行われている。夏季には海水浴や、スキューバダイビング、海岸線のクルージング等の利用がなされている。



日御碕



経島とウミネコ



出雲大社

図 19 島根半島西部地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 日御碕及び鷺浦

(地区概要)

日御碕は、リアス式海岸の岸壁にそびえ立つ出雲日御碕灯台、国指定重要文化財である日御碕神社、ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている経島等の見どころがあり、古来から神幸神事（夕日の祭り）が執り行われている夕日スポットである。自然・歴史・文化の探勝や、釣りやスキューバダイビング等のアクティビティが楽しまれている。

また、鷺浦は、日御碕に隣接した山と海に囲まれた小さな港町で、かつては北前船の寄港地として栄え、美しい自然と赤瓦の家々、古い町並みが今でも残っている。遊漁船に乗って漁港や洞窟の風景を楽しめるクルージングや海水を使った塩炊き体験、カヤックによる島めぐりなど様々な体験ができる。

(優先的な取組)

- ① 自然・文化体験ツアー、プログラムの充実化
 - ・ 自然景観を楽しむとともに、歴史や文化に触れることのできる公演やツアーの実施
- ② まちなみ景観の改善等
 - ・ 一体感のあるまちなみ景観の醸成のため、店舗や宿泊施設の修景を推進
- ③ ワークেশョンツーリズムの推進
 - ・ 自然資源や歴史資源を活かしたワークেশョンツアーコンテンツの造成や、必要な受入環境整備を実施



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然・文化体験ツアー、プログラムの充実化

- ・ 国立公園や島根半島・宍道湖中海ジオパークの自然資源と、神話や日本遺産「日が沈む聖地出雲」、等の歴史・文化資源を活用したツアーやイベントの充実化
- ・ 夕方から夜、または早朝の時間帯に行うツアーやアクティビティの開発を検討

2) 周辺地域との連携による滞在型観光の推進

- ・ 島根半島・宍道湖中海ジオパークやえびすだいこく両参り、国引き神話等の要素を組み込んだ広域周遊ルートの設定やツアーの開発
- ・ 日本遺産やジオパークの魅力を発信できるガイドの育成・スキルアップ

3. 6 三瓶山地域で実施する取組

(1) 三瓶山地域の概要

三瓶山地域は、山麓部に広がる草原を含む三瓶山一帯と湯抱温泉地区から成る。三瓶山の中央部には溶岩円頂丘群の男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶等が室の内という中央のくぼ地を囲むように環状に連なる。

また三瓶山は、中国山地から離れた独立峰であるため遠方からもよく見え、出雲国風土記が伝える「国引き神話」において、国引きの杭に見立てられるなど、古くから信仰の対象となってきた。

男三瓶の山頂一帯は風衝草原となっており、ススキを始めとする草本が生育している。男三瓶の北側斜面と室の内にはブナの自然林が分布し、国の天然記念物に指定されている。古くから放牧地として利用されている山麓の北の原、西の原、東の原に広がる草原には、ヤマラッキョウやカイジンドウ、マツムシソウなどの多様な草原性植物が見られるほか、絶滅危惧種のダイコクコガネが生息している。中でも西の原では、放牧に加え、火入れやユウスゲ等の希少植物の保護活動等が行われており、三瓶山の象徴と言われる草原景観が維持されている。また、西の原には浮布池、北の原には姫逃池、室の内には室の内池といった成因の異なる池があり、地域で保全活動が行われている。

この地域は、「島根県立三瓶自然館サヒメル」や「国立三瓶青少年交流の家」、「山の駅さんべ」など複数の活動拠点と多様な自然環境を有しており、登山、ハイキング、キャンプ、ピクニック、クロスカントリー、ツーリング、自然学習など、四季を通じた幅広い利用が行われている。また、三瓶温泉や湯抱温泉は古くから情緒ある保養地となっている。この地域の近隣にある、約 4,000 年前の三瓶山の噴火により埋没した巨木群は、「三瓶小豆原埋没林」として国の天然記念物に指定され、世界遺産石見銀山遺跡をはじめとする三瓶山・大江高山の火山活動に由来する周辺の文化財とともに、日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀（しろがね）の山”と出逢える旅へ～」に認定されている。



男三瓶・子三瓶と浮布池



西の原（放牧）と男三瓶



大平山

図 20 三瓶山地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 男三瓶山頂

(地区概要)

三瓶山は複数の峰が環状に連なっており、それぞれの山頂へ至る登山道や峰々を周回する縦走路等、複数の登山道があり、子どもから高齢者まで幅広い利用がある。

標高 1,126m の男三瓶は、三瓶山の最高峰で、山頂からは遠く日本海や島根半島を望むことができる。山頂一帯は風衝草原となっており、リンドウ等の草原性植物が生育しているほか、秋にはススキ原が広がる。一方、複数の登山道の交差点となっていること等から登山者が多く、踏み荒らしや土壌流出等により植生が衰退している箇所がある。なお、男三瓶～女三瓶間の登山道は、2018 年（平成 30 年）の島根県西部地震発生後に、一部崩落等があることから通行止めの措置を行っていたが、2020 年（令和 2 年）に条件付きで解除している。

(優先的な取組)

① 施設の整備

- ・ 男三瓶山頂の植生復元のため土壌流出防止対策等を実施する。
- ・ 維持管理体制を構築した上で、男三瓶山頂付近へのトイレ整備を実施する。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然環境の保全

- ・ シカの出現状況を注視し、必要な場合には分布拡大を防ぐ取組や植生保全のための予防的措置を検討する。
- ・ ナラ枯れ被害木の適切な処理や森林の手入れによって、被害の拡大の防止と利用者の安全の確保を図る。
- ・ 西の原火入れやクリーン三瓶、姫逃池カキツバタ群落や希少動植物の保全活動に継続して取り組むとともに、持続可能なしくみを検討する。

2) 体験ツアーの充実と周遊・滞在型観光の推進

- ・ 日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ～」を軸として、三瓶山と石見銀山の連携を一層強化し、誘客を促進する。
- ・ 温泉や食、石見神楽など地域の素材を活かした体験ツアーを商品化し、誘客を図る。

3) 施設の整備・改修

- ・ 三瓶山の登山道や遊歩道について、管理体制等について調整の上で、整備を行う。併せて、多言語表示の案内板や誘導標識を設置する。
- ・ 三瓶小豆原埋没林公園の魅力の発信と誘客促進のため、ガイドンス棟の展示機能を強化する。

4 進捗評価及びプログラムの改訂

4. 1 地域協議会の体制と役割

本プログラムを地域関係者間の協働で実施するため、地域協議会及び地域部会がプラットフォームの役割を果たす。各主体の取組を共有し、地域間での学びあいや連携を促すのみならず、協議会としての取組を実施し、ソフト面で大山隠岐国立公園全体での魅力の向上を推し進める。具体的には、国立公園全体で課題となっているテーマ（例：ガイド養成等）に関するテーマ別の取組や、地域単位の課題への対処（例：国立公園管理運営計画と満喫プロジェクトの連動、ジオパークとの連携など）に関し、関係主体が協働で取り組むための伴走支援を実施する。その際、必要に応じてワーキンググループ等を設置し、幅広い主体の参画を促す。

地域協議会の開催に当たっては開催の目的を明確化し、継続的な参画の意義が高まるよう努める。必要に応じて担当者間の準備会合等も開催する。民間事業者等との連携についても、参画の意義が明確に伝わるよう連携・実施内容を整理していく。

加えて、満喫プロジェクトの取組の効果が地域全体の魅力と持続可能性の向上につながるよう、協議会における取組は、国立公園外の地域との連携も視野に入れて進める。

4. 2 進捗評価

本プログラムの実施期間中は、地域協議会及び各地域部会において、以下のとおり、各取組の実施状況と、本プログラムの目標の達成状況について、定期的に評価を行う。その評価を踏まえて、その後の取組を実施する。最終年度にはプログラム全体の評価を行う。

(1) 取組の実施状況の評価

別紙1に掲げる実施する取組とその進捗状況について毎年度整理するとともに、成果や課題について共有・検討する。

(2) 目標の達成状況に係る評価

2. 3に掲げる目標の達成状況について、2. 5に記載する指標を用いて評価を行う。評価は原則として毎年度実施する。

4. 3 プログラムの改訂

本プログラムの内容については、取組の進捗状況や社会情勢を踏まえ、必要に応じて~~新型コロナウイルス感染症の収束後、その他必要な場合に、~~地域協議会において見直しを行うが行われる。